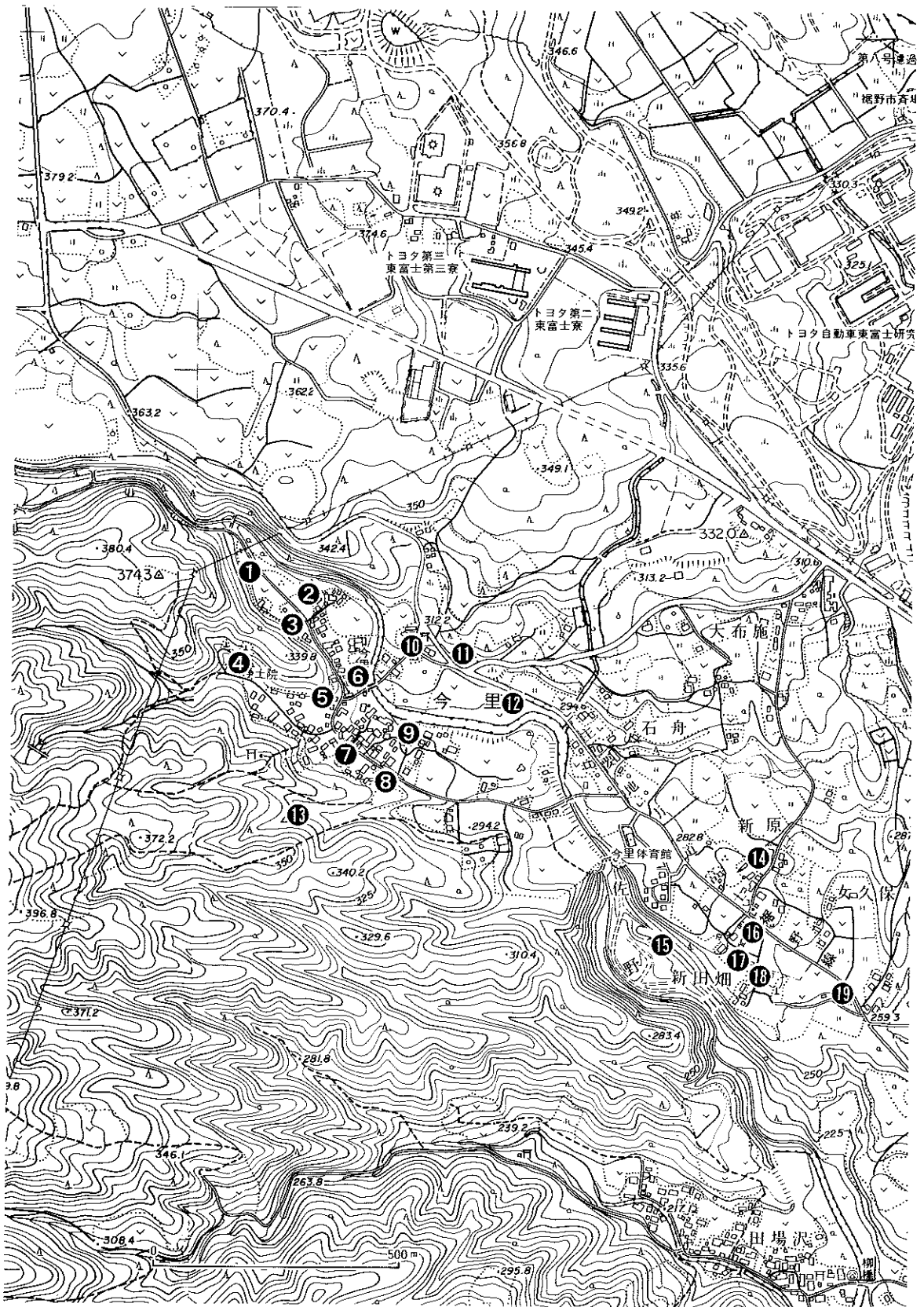


今里地区



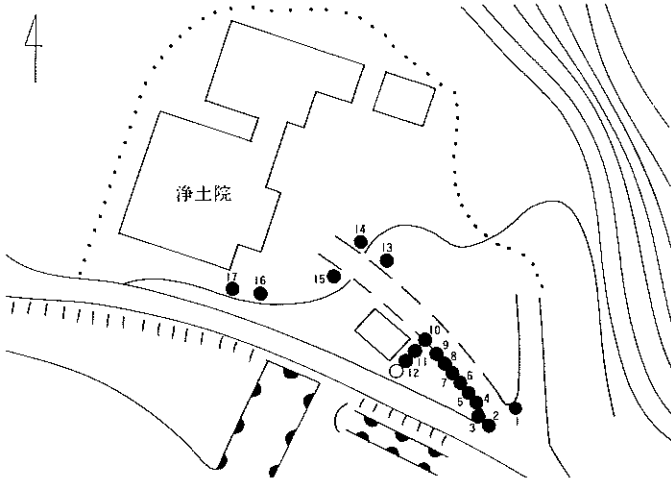
今里地区



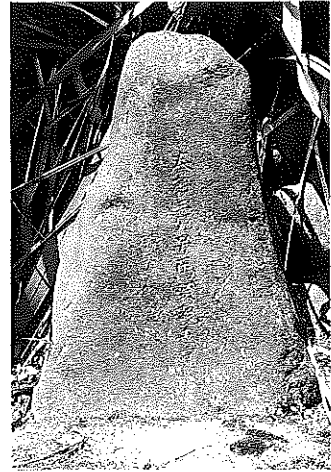
2 馬頭観音



1 馬頭観音



4 浄土院



3 馬頭観音



4-3 万霊塔



4-2 万霊塔



4-1 石灯笼



4 浄土院（六地藏）



4-6 地藏菩薩



4-5 地藏菩薩



4-4 地藏菩薩



4-9 地藏菩薩



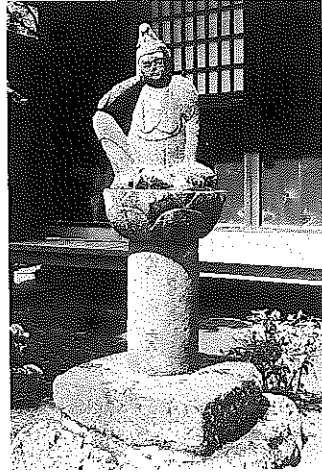
4-8 地藏菩薩



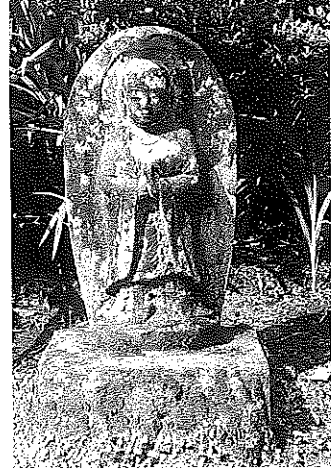
4-7 地藏菩薩



4-12 名号塔



4-11 順礼供養塔(西)



4-10 地藏菩薩



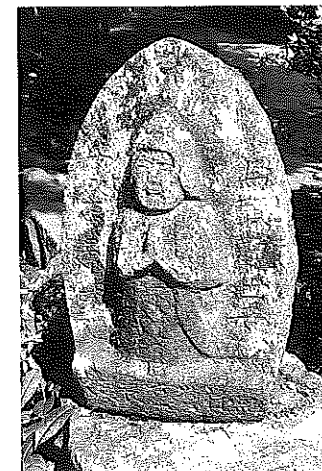
4-15 石灯笼



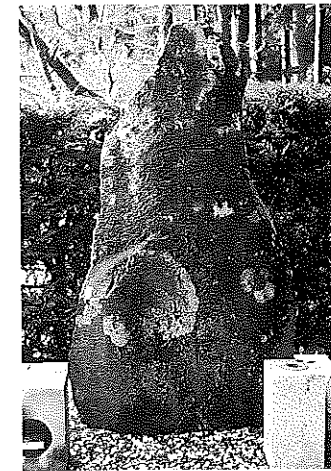
4-14 石灯笼



4-13 石灯笼



4-17 馬頭観音



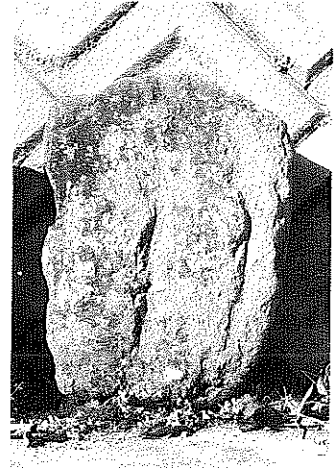
4-16 名号塔



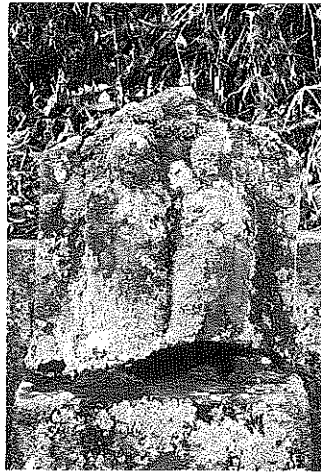
6 馬頭観音



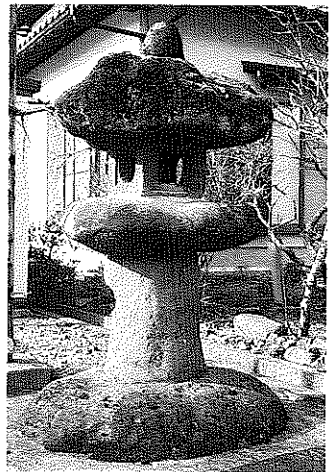
5-2 道祖神



5-1 道祖神



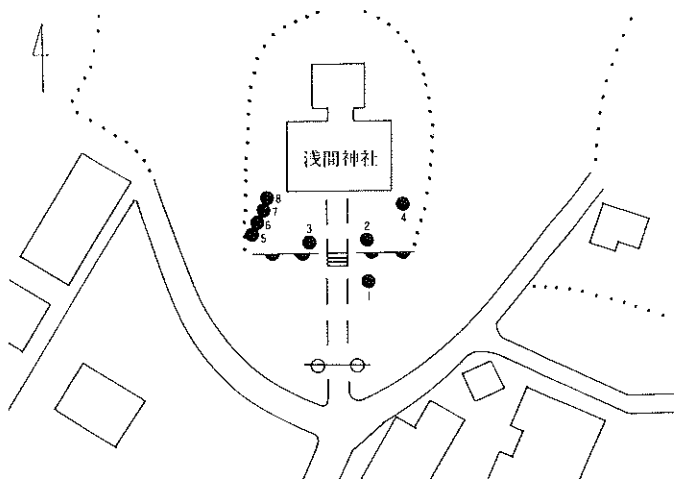
8 道祖神



7 秋葉山供養塔



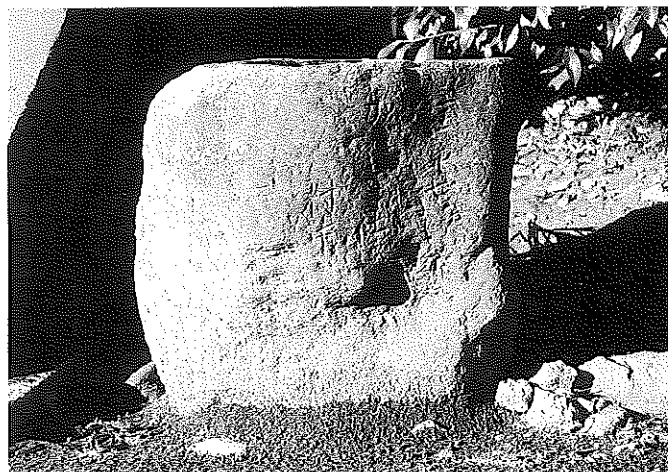
9-2 石灯笼



9 浅間神社



9-3 石灯笼



9-1 手洗石



9-5 碑 (顕彰碑)



9-4 手洗石



9-8 碑（戦捷記念）



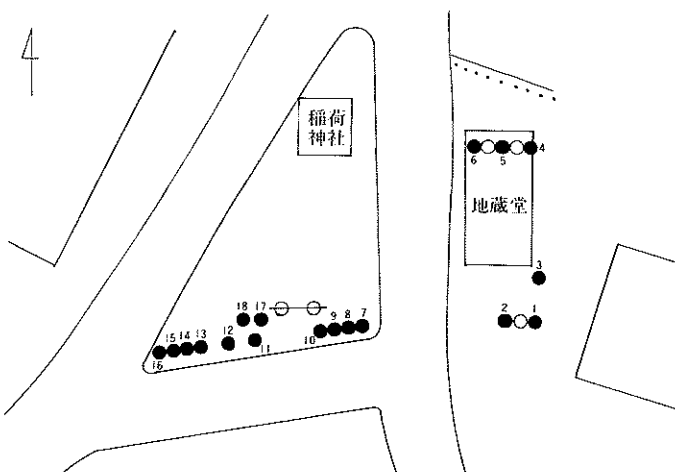
9-7 碑（長坂共有林の由来）



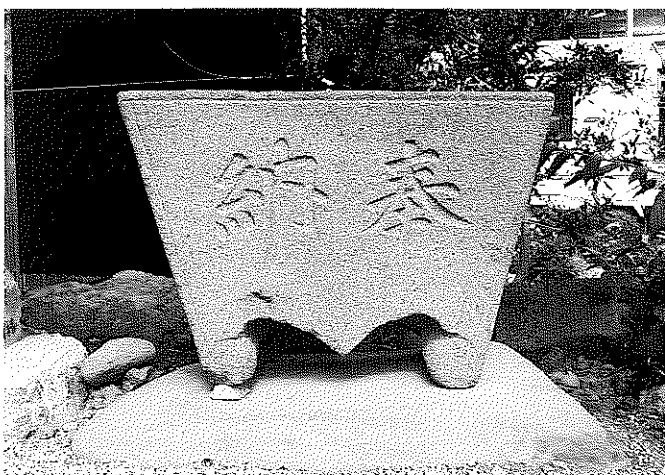
9-6 碑（富平山の由来）



10-1 石灯笼（部分）



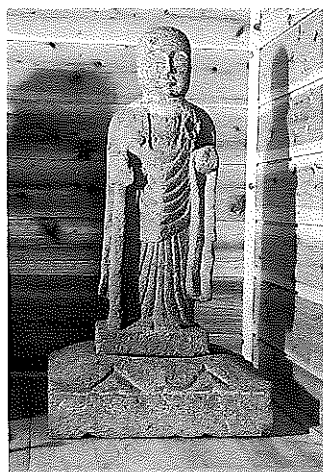
10 地藏堂・稲荷神社



10-3 手洗石



10-2 石灯笼（部分）



10-4 地蔵菩薩



10-6 地蔵菩薩



10-5 地蔵菩薩（岩船地蔵）



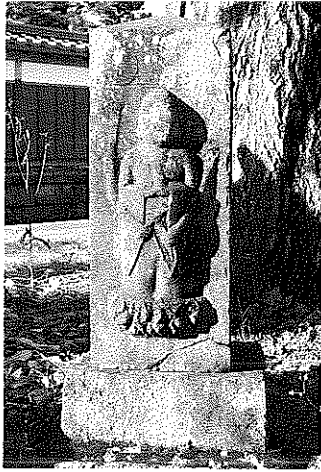
10-9 馬頭観音



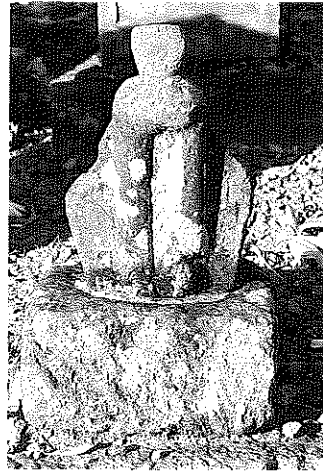
10-8 順礼供養塔（秩・横）



10-7 道祖神



10-12 庚申塔



10-11 石造物(不明)



10-10 馬頭観音



10-15 馬頭観音



10-14 庚申塔



10-13 順礼供養塔(西・横)



10-18 石灯籠(部分)



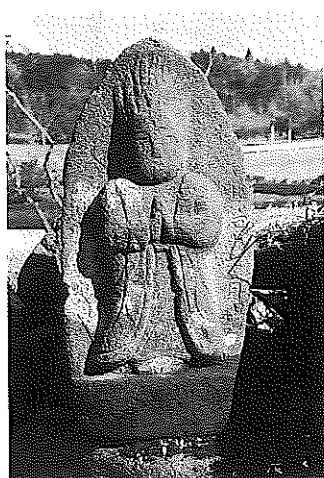
10-17 廻国塔



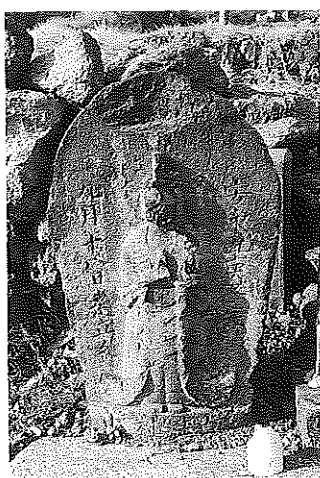
10-16 廻国塔



11 今里バス停留所前



12 馬頭観音



11-2 馬頭観音



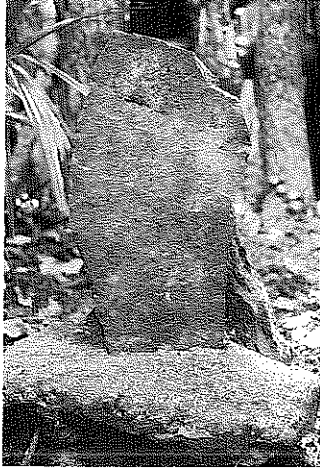
11-1 馬頭観音



14 馬頭観音



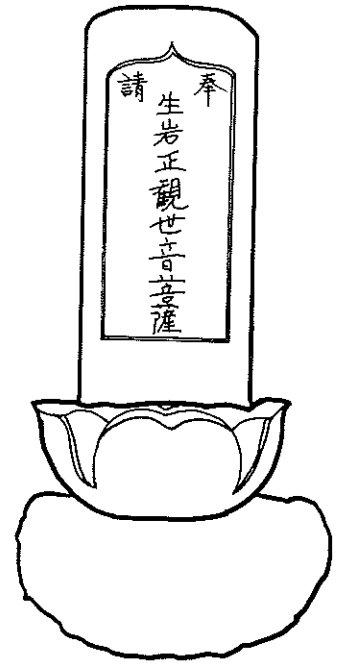
13 水神塔



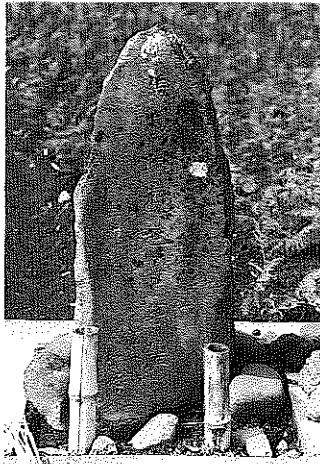
16-2 石造物（不明）



16-1 石灯笼（部分）



15 觀世音菩薩



19 馬頭觀音



17 水神塔



18-3 諸神（観音さん）





18-2 馬頭観音



18-1 道祖神

△今里地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	馬頭觀音	自然石	昭和6(一九三一)	65×53	(正)奉勸馬頭觀世音 昭和六年九月 施主勝又喜重
2	馬頭觀音	舟型立像	文政2(一八一九)	53×32	(正)文政二辰年 五月十日
3	馬頭觀音	自然石	昭和26(一九五一)	69×51	(正)奉觀三姫号馬頭觀世音 昭和廿六年九月十八日 勝又由太郎之建
4-1	石灯籠	灯籠		204×86	
4-2	万靈塔	灯籠	延享1(一七四四)	133×45	(正) 三界萬靈等 (右) 安親山十五世極樂代 (左) 願主勝間田五左衛門 (背) 維持延享元甲子六月方
4-3	万靈塔	自然石	安永3(一七七四)	194×119	(正) 萬靈塔 (背) 奉口經日本同國併養 安永三甲午祀仲秋日
4-4	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		70×31	(背) □ 幻覺精連佛 (頸部補修・風化)
4-5	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		65×32	(背) 幻覺精連佛 (頸部補修)
4-6	地藏菩薩(六地藏)	丸彫立像		65×31	(背) 幻覺精連佛 (頸部補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
4-14	石灯籠	灯籠	昭和60 (一九八五)	181×75	(正) 献燈 (背) 為勝又家先祖善提 昭和六拾年拾月拾日 勝又晴司 勝又虎兒 勝又龍男 勝又修一郎	
4-13	石灯籠	灯籠	昭和46 (一九七一)	261×80	(正) 奉納 (背) 昭和四十六年六月 勝又良三 寸ま建之	
4-12	名号塔	角 笠唐破風柱	寛文9 (一六六九)	174×53	別記1 (126頁)	
4-11	順礼供養塔 (西)	丸彫座像	寛保1 (一七四一)	142×80	(正) 奉供娘西國卅三所 觀世音菩薩 為二世安樂也 駿州今里村勝間田彦八 同名伊右衛門 同名嘉平治 同國金沢村永田平治郎 (背) 寛保元辛酉歲九月吉祥 (如意輪)	
4-10	地藏菩薩	舟型立像		58×25		
4-9	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		66×33	(背)  幻覺精蓮佛 (頸部補修・風化)	
4-8	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		66×31	(背)  幻覺精蓮佛 (頸部補修・風化)	
4-7	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		65×32	(背) □ 幻覺精蓮佛 (頸部風化)	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
9-1	手洗石	自然石	宝永7(一七二〇)	62×60	(正) がんき仕 宝永七庚寅年 八月朔日 村中 (右) 團圓 石や次郎兵衛
8	道祖神(双体)	駒型淳彫		111×95	(風化)
7	秋葉山供奉塔	灯籠		180×116	(正) 秋葉山
6	馬頭観音	舟型立像	宝曆8(一七五八)	72×35	(正) 一切精霊石兼両縁 宝曆八戊寅五月吉日
5-2	道祖神(双体)	くり抜		60×50	(風化)
5-1	道祖神(双体)	浮彫立像		50×35	(風化)
4-17	馬頭観音	浮彫立像	安永7(一七七八)	52×37	(正) 馬頭観音 安永七戌年酉七月八日化生 當村惣重長建 (風化)
4-16	名号塔	自然石		136×80	(正) 南無阿弥陀佛 干□□拾年六月十五日文嘗
4-15	石灯籠	灯籠	昭和60(一九八五)	181×75	(正) 献燈 (背) 為勝又家先祖菩提 昭和六拾年拾月拾日 勝又晴司 勝又虎児 勝又龍男 勝又修一郎

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
10-2	石灯籠	灯籠		94×47	(宝珠・中台・火袋欠落 笠一部欠損)
10-1	石灯籠	灯籠	元文2 (一七三七)	86×45	(正) 奉寄進爲 世安樂 (右) 施主今里村中 (左) 元文丁巳天七月吉日 (中代・火袋欠落 笠一部欠損)
9-8	碑(戦捷記念)	自然石		58×48	別記5 (129頁)
9-7	碑(今里長坂共有林の由来)	板石	昭和42 (一九六七)	161×66	別記4 (128頁)
9-6	碑(富平山の由来)	板石	昭和42 (一九六七)	160×68	別記3 (127頁)
9-5	碑(顕彰碑)	板石	昭和45 (一九七〇)	158×75	別記2 (126頁)
9-4	手洗石	箱型	大正3 (一九一四)	100×147	(正) 奉納 村内安全 (右) 大正三年三月吉日 今里 勝又熊太郎
9-3	石灯籠	灯籠	享保4 (一七一九)	178×60	(正) 奉寄進石燈焔爲 (右) 享保四己亥曆 九月吉日 (左) 安全子孫繁昌也 (背) 勝間田氏 伊右衛門 (火袋補修)
9-2	石灯籠	灯籠	享保9 (一七二四)	176×56	(正) 奉寄進石燈焔一封諸願成就之所 享保九甲辰年 五月吉日 勝間田伊右衛門 (火袋補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
10-3	手洗石	箱型	明治31(一八九八)	54×75	(正) 奉納 (左) 明治卅一年九月吉日 四方信者淨財ヲ以造之 周施人當今里 勝又儀右衛門
10-4	地藏菩薩	丸彫立像		78×40	(正) 地藏菩薩 (今里地藏堂内)
10-5	地藏菩薩 (岩船地藏)	丸彫立像		110×47	(今里地藏堂内)
10-6	地藏菩薩	丸彫立像		45×21	(今里地藏堂内)
10-7	道祖神	自然石		82×73	(正) 道祖神
10-8	順礼供養塔 (秩・横)	山型角柱	寛政12(一八〇〇)	122×63	(正) 秩文三千四所 横道三千三所 順礼供養塔 (右) 崇寛政十二庚申年 (左) 十月七吉日
10-9	馬頭観音	浮彫立像	文政2(一八一九)	130×48	別記6(129頁) (台座は順礼供養塔のもの)
10-10	馬頭観音	舟型立像	明治4(一八七二)	71×39	(正) 明治四未年四月二十日 勝又久左衛門
10-11	石造物(不明)	浮彫立像		49×31	(正) □ 牛口七月 (光背欠落・頭部別石補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
11-1	馬頭觀音	自然石	昭和2 (一九二七)	64×37	(正) 馬頭觀世音菩薩 昭和二年十月六日 勝又口一 (中央部割れ目)	
10-18	石灯籠	灯籠	延享3 (一七四六)	111×45	(正) 奉獻青面金剛前 金兵衛 五兵衛 (左) 八月吉辰講中 甚兵衛 七右衛門 与兵衛 清左衛門 四兵衛 (中台・火袋部欠落)	
10-17	廻国塔	山型角柱	寛保3 (一七四三)	120×56	(正) 奉供粮大乗妙典六十六部日本廻國處 天下泰平 國土安全 (右) 寛保三癸亥歲五月吉辰 (左) 駿州駿東郡御厨今里村勝間田五左衛門	
10-16	廻国塔	山型角柱	宝曆4 (一七五四)	161×66	(正) 奉供養大乗妙典六十六部廻國之處 天下和順 日月清明 (右) 寶曆四甲戌 星 十月吉日 (左) 爲 駿東郡今里村 江戸北新堀町中 現當岡益 願主 了源	
10-15	馬頭觀音	自然石	明治16 (一八八三)	65×43	(正) 馬頭觀世音 明治十六年五月日 杵本常治良	
10-14	庚申塔	笠唐破風角柱	元禄1 (一六八八)	130×47	(正) 歸命無量壽覺 諸行無常 是生滅法 生滅々己 家滅爲樂 (右) 今月結衆等催庚申石塔建 立爲現當一世之而益成就 圓滿奉供養者也 (左) 宣元禄元辰年拾月廿二日 駿州今里村 且主敬白 (一部欠落)	
10-13	順礼供養塔 (西・横)	丸彫座像	宝曆12 (一七六二)	132×50	別記7 (129頁) (頭部補修/聖觀音)	
10-12	庚申塔	山型角柱 浮彫立像	享保14 (一七二九)	113×66	(正) ○ (右) 奉供養庚申塔 (左) 享保十四己酉九月吉日 今里村 講中 (風化)	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
18 1	道祖神	自然石	平成2 (一九九〇)	48 × 42	(正) 道祖神 平成二年九月吉日 勝又啓司
17	水神塔	自然石	明治25 (一八九二)	45 × 35	(正) 水神宮 明治廿五年十二月 勝又久治郎
16 2	(石造物(不明))	自然石		54 × 38	
16 1	石灯籠	灯籠		109 × 49	(中台・火袋部欠落)
15	觀世音菩薩	橢圓角柱	安永3 (一七七四)	104 × 50	別記8 (129頁)
14	馬頭觀音	自然石	昭和43 (一九六八)	88 × 55	(正) 馬頭觀世音菩薩 (背) 昭和四十三年七月吉日 今里新田 勝又敬幸建立之
13	水神塔	自然石	文久2 (一八六二)	82 × 77	(正) 水神宮 文久二戌年 下村中 世話人清兵衛 永吉 仁左衛門 重右衛門 角左衛門 義左衛門 幸治郎
12	馬頭觀音	舟型立像	明治17 (一八八四)	75 × 48	(正) 明治十七年三月日 勝又常八
11 2	馬頭觀音	舟型立像	安永9 (一七八〇)	68 × 44	(正) 安永九庚子年九月八日建立之 施主村中 (舟型下部・顔面欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
18 1-3	諸神(観音さん)	自然石	平成2(一九九〇)	78×68	(正)馬頭観世音 平成二年九月吉日 勝又啓司
18 1-2	馬頭観音	自然石	明治9(一八七六)	56×23	(正)馬頭観世音 明治九年三月廿一日 施主 勝又久四郎
19	馬頭観音	自然石			

別記1 名号塔

(正) 南無阿弥陀佛 □廻何

(右) 汎 遍誉道頓 □衛門 茂右衛門 □喜兵衛

□誉貞正 仁右衛門 善左衛門 □廻喜 □衛門

安誉相開 □兵衛 □吉兵衛 □誉香

因廻因廻 □因廻 新左衛門 □誉淨廻

□妙蓮 □兵衛 □兵衛 与□衛門 □右□門

(左) 汎 □誉宗 □固左衛門 □左衛門 □左衛門

□衛門 善右衛門 □右衛門 □兵衛 □

角左衛門 清左衛門 同母 □左衛門 七郎因門

久左衛門 □八郎左門 六郎左門 □衛門

□同□

(背) 石塔者自性本来之廻心也

寛文九己酉年六月十五日 □二世安之所

念佛講衆人數四十八人 本願 伊兵衛 道師 廻誉

信列石圍志

別記2 碑(顕彰碑)

(正) 顕彰碑 緑濃き静かな愛鷹の麓新装成って区内を通ず

る舗装道路 新時代に沿った交通文化の先駆である

この舗装道路は昭和四十年トヨタ自動車富士工場進出

の際裾野町発展のため区有地及私有地を提供した区民

の絶大なる協力の代償として 当時区长松本貞七氏他

区役員により 裾野町長小林秀也氏と舗装に関する附

帯契約を取り交し其の後歴代区长勝又隆義氏勝又俊太

郎氏及区役員実現に努力し遂に昭和四十四年区长勝又

耕作氏及区役員の最終努力により町議真田利一氏の援

助と町長遠藤佐市郎氏の協力により実現し昭和四十五

年三月完成したものである 然しこの道路は旧時道巾

漸く一、八メートル程度であったが 昭和十七年区长

坂田貞雄氏当時旧富岡村森林組合と今里区共催により下橋バス停より大向に至る延長約四千メートルを併用林道として開設隣接地主の協力を得土地の無償提供を受け現在の四米に拡幅した 当時支那事変及太平洋戦争に遭遇一度は中断の止むなきに至ったが工期を三期に分割極めて困難な世相のうち今里区民の熱意と協力により昭和二十三年三月完成したものである 又現在の今里橋架設に当っても当時の区長杉本季光氏及び村議勝又富平氏の努力により上下橋を昭和十三年四月完成せしめ其の後上橋を通ずる川向道の拡幅に際しても関係地主の協力を得て現在に至った 一方新田バス停より唐沢へ通ずる新田道も昭和二十七年勝又甚吾氏区長当時新道を開設関係地主の協力のもとに現在に及んだ以上の如く関係地主の愛村と犠牲的精神の発露により今日の道路が開拓された 茲に関係各位の氏名及由来を明記し永久に感謝の念を残す所以である
昭和四十五年十月十七日

(背)

頭彰碑建設者代表 今里区長勝又賢吾 今里区民一同
施工者 三島市小山 木下石材店

道路開設土地寄附者芳名
今里一 大向線林道 勝又久一 裾野町今里八六二
勝又喬樹全七九九 勝又比左志全六七五の二
勝又俊太郎全八六五 勝又正彦全八七三
勝又弥三郎全八二九 勝又勝藏全八一四
杉本皓一全七三七 杉本季光全七八八

別記3

碑 (富平山の由来)

(正)

富平山起源 富平山の由来

所在地 裾野町下和田字内山一二六六番地の一
昭和十二年七月 日支事変発生するや時局は重大化し

坂田喜作全八〇一 勝又三門全八〇九
勝又勝照全八〇二 勝又刃三全七三六
勝又義次全八〇三 杉本光秋全八〇四
勝又寿全八六八 勝又勝右衛門全八三〇
勝又新平全八七二の一 勝又富平裾野町今里八八二
杉本文百全八八六 杉本五一郎全八九〇
勝又常次郎全八八九 勝又元二郎全八九六
勝又重明全九〇一 勝又耕作全九一九
勝又とよ全九〇二 勝又寅春全九一五
勝又巖全九二〇 大久保共有全 小島爲作鎌倉山
坂田昭二 裾野町今里八九九 鈴木一政 裾野醬油屋
坂田松男 裾野町今里八九九 勝又賢吾全二四
川向道 杉本文百 裾野町今里八八六
杉本森雄全八八五 杉本季光全七八八
勝又五三郎全六三七の一の二 勝又富平全八八二
新田道 勝又理三郎 裾野町今里一〇四 勝又豊全九七七
勝又民雄全一〇七 勝又一吉全一〇八
勝又彦作全三〇 勝又賢吾全二四 勝又久夫全三一
渡辺弘治全二八一の一 勝又勇全二四八の二
勝又春夫全二八一 勝又武夫全六七〇

国力をあげての非常事態となったこの時勝又富平氏は出征軍人の武運長久祈願留守家族の慰問等日夜を分たず奉仕に専念する在郷軍人会消防団青年団等地元諸団体の活動に感謝しこれに協力するため大野原開墾畑五反歩に対する利権一切を寄附されたしかるに戦局は更に拡大し昭和十六年十二月太平洋戦争に発展し昭和二十年八月ついに終戦となった以後前記土地は今里区の管理となり同四十年トヨタ自動車工業株式会社富士工場進出に伴い用地買収地域のため時の区長勝又直枝氏

続いて松本貞七氏勝又隆義氏はこれに協力し買収に応じ町議勝又賢吾氏及び役員協力のもとに裾野町当局と二ヶ年に亘る交渉の結果代金の一部で下和田地籍町有林植栽後六ヶ年荏町歩を代替地として払下げを受けここに今里区有林として誕生したものである今里区は寄附者の意志を尊重しこれを富平山と呼稱し長く保存することとしたなお約貳百万円は今里区福祉基金として青少年其の他諸団体の活動を助成し育成を計り長くその恩恵を被ることとなったものである

昭和四十二年四月十六日

建設者代表 今里区長勝又俊太郎

共有管理委員長勝又耕作 他各協議委員長組長

別記4 碑（今里長坂共有林の由来）

（正）長坂共有林記念碑 今里長坂共有林の由来

国有林野所在地 字長坂一〇五八番地

払下買受面積 貳拾壹町八反壹畝拾壹歩

払下買受代金 金八百四拾貳万円

右官林は古来より下草刈取屋根茅資源女竹採集で今里農家経営にとつて欠く事のできない宝庫であった大正三年の植林の際は区民ごぞつて整地植付下刈等一切を奉仕して来た大正八年時の区長勝又富平氏は林野当局と交渉の結果御料地保護組合を結成し初代の組合長に就任以後区長を組合長とし当局指導のもとに区民をあげて協力して来たこの間勝又三門氏は実に二十有余年の長期にわたり専任組合長として献身的努力をされた右のごとく今里区とは因縁深い土地で払下げの場合は優先的扱いの希望を持っていたが終戦の翌々年昭和二十二年第三者である海外引揚者互助組合に払下げが内定等の危機に直面区民の驚き一方ならず農林省総務局長遠藤三郎氏富岡村長遠藤佐市郎氏格別の配慮のもとに時の区長勝又勝藏氏続いて勝又龜寿氏勝又毅氏は村議勝又伊太郎氏勝又暉夫氏と共に区民の総意をもつて払下げ運動に努力され昭和二十四年遠藤三郎氏第一回衆議院議員に当選するや同氏の多大なる努力の結果国有林野整備法が制定され地元払下げに有利な条件となったこれに力を得て区長勝又暉夫氏は村議勝又喜重氏勝又三門氏と共に更に更に払下げ運動を展開され続いて区長勝又甚吾氏二ヶ年の最終努力により二十八年二月十日富岡村長に払下げ許可となり同年十二月二十五日富岡村長より今里区代表勝又甚吾他八十三名に払下げられ

ここに長坂共有林の誕生が実現したのである以上の私
下げに援助された遠藤佐市郎氏並びに歴代区長及び役
員先輩諸氏に深甚なる敬意と感謝の意をささげその由
來を銘記する所以である

(背) 昭和四十二年四月十六日

建設者代表 今里区長勝又俊太郎
共有管理委員長勝又耕作 他各協議員組長

別記5 碑(戦捷記念)

(正) 戦捷記念 世話人勝又瀧三郎 勝又佐太郎 勝又金作

坂田太一 勝又作 杉本季光 発起人坂田貞

勝又猪三 勝又角之助 勝又常福 勝又今藏

勝又林作 勝又政一 勝又伊太郎

別記6 馬頭観音

(正) 文政二卯年 四月十五日

(台座正) 横道同行八人 源右衛門 甚助 伊左衛門

おとめ おと おはな □ 函い お 函

(台座左) 秩父同行八人 源右衛門 八之丞 元治郎

伊右衛門 おはや おつた おつ 函 お志す

同々行七人 与右衛門 清治郎 清右衛門

鬮左衛門

(背) 助治良 おく己 おてり 秩父同行三人 吉右衛門

おぎん 市五良

別記7 順礼供養塔(西・横)

(台座正) 奉巡礼供養佛 西國三十三所 横道三十三所

宝曆十二年天 八月吉日

(台座左) 助七 平右衛門 おみそ おとめ 清七 同人内

おさよ

(台座背) 今里村太良右衛門 同人内 甚兵衛 おむ□

おは津 おさ津

(台座右) おつや おはる おてり 小畑 清七母

伏見村半右衛門 義八 元右衛門

別記8 観世音菩薩

(正) 奉請 生岩正観世音菩薩

(右) 祝衆生福壽海無量矣御宿邑 岬安永三甲午天九月日

願主 宗俊謹識

(左) 施主 今里新田 勝又八之丞

(背) 明和八辛卯慶八月從亦一日有信願昼夜発龍比岩益一七

日京比岩滅頼父前化大悲之尊密身心寂靜而誦神呪行札

特國邑□□鐘緑号主岩正観音奉神請無海也伏願表或除

却茲眼

裾野の石造物点描

今里 岩船地蔵(10―5)

福田アジオ氏の「歴史を調べる楽しみ―岩船地蔵搜索記―」(裾野市史研究五号 平成五年)によると「今里に岩船地蔵さんがあって、小字名にも読みはイシブネだが岩船があつて、そこにお堂があり地蔵様が祀られ、七月二十四日にお祭りをしてる」(文言要約)とあり、石船という小字名と岩船地蔵さんと深い関連のあることを示唆しておられる。また農面道路を通つて公文名から久根に入るところに泉川を渡る橋が架つていて、この橋を石船橋といい、読みは今里と同じようにイシブネという。



福田氏が岩船地蔵さんの史料として採用された柏木甚右衛門「覚書帳」(柏木家文書)によると、「岩船山地蔵様は享保四年(一七一九)七月に郡内(山梨県都留郡)から須走村へ来て、七日目に中畑村の寺へ移った。不思議な有り難いお地藏さんであるが、御姿は人の目には見えない。それから七日目に佐野村の法雲寺へ移ってきた。そして五日目に本宿村へ向つていった。廻つて来た村々は幟を奉納し、いろいろな供物を寄進した。深く信心すれば盲目の人は目が見えるようになり、口のきけない人は話せるようになり、手足の不自由な人、病氣の人は直つてしまふ洵に有り難いお地藏さんである」という。この岩船地蔵さんの御利益は大したもので郡内から籠坂を越えて駿東へ入り、七日間づゝ滞在した村々は文面から推察すると、大へんな賑わいであつたらしい。ともあれ前述の岩船橋であるが、今里の小字石船を岩船地蔵と関連があるとすれば、佐野村から出発した岩船地蔵が村々を回わる途中で、この辺りで泉川をお地藏さんに乗せた舟が渡つたので後に橋名となつたのではなからうか。大きな長方形の石の内側を刳り抜いて貯水槽にしたものを石船というが、こうした石造物を今里の地名や泉川の橋名とは関係がないように思われる。

この岩船地蔵さんのもとと下野國佐野岩船山(現栃木県佐野市)にあつたお地藏さんで、舟の形をしたものにお地藏さんを納めて、きれいな飾り付けをして村々を回つたという。享保四年、岩船地蔵さんは武蔵国へ入り青梅、八王子から甲州街道を通つて郡内へ、同年七月には駿東へ入つたとは前に述べた通りである。

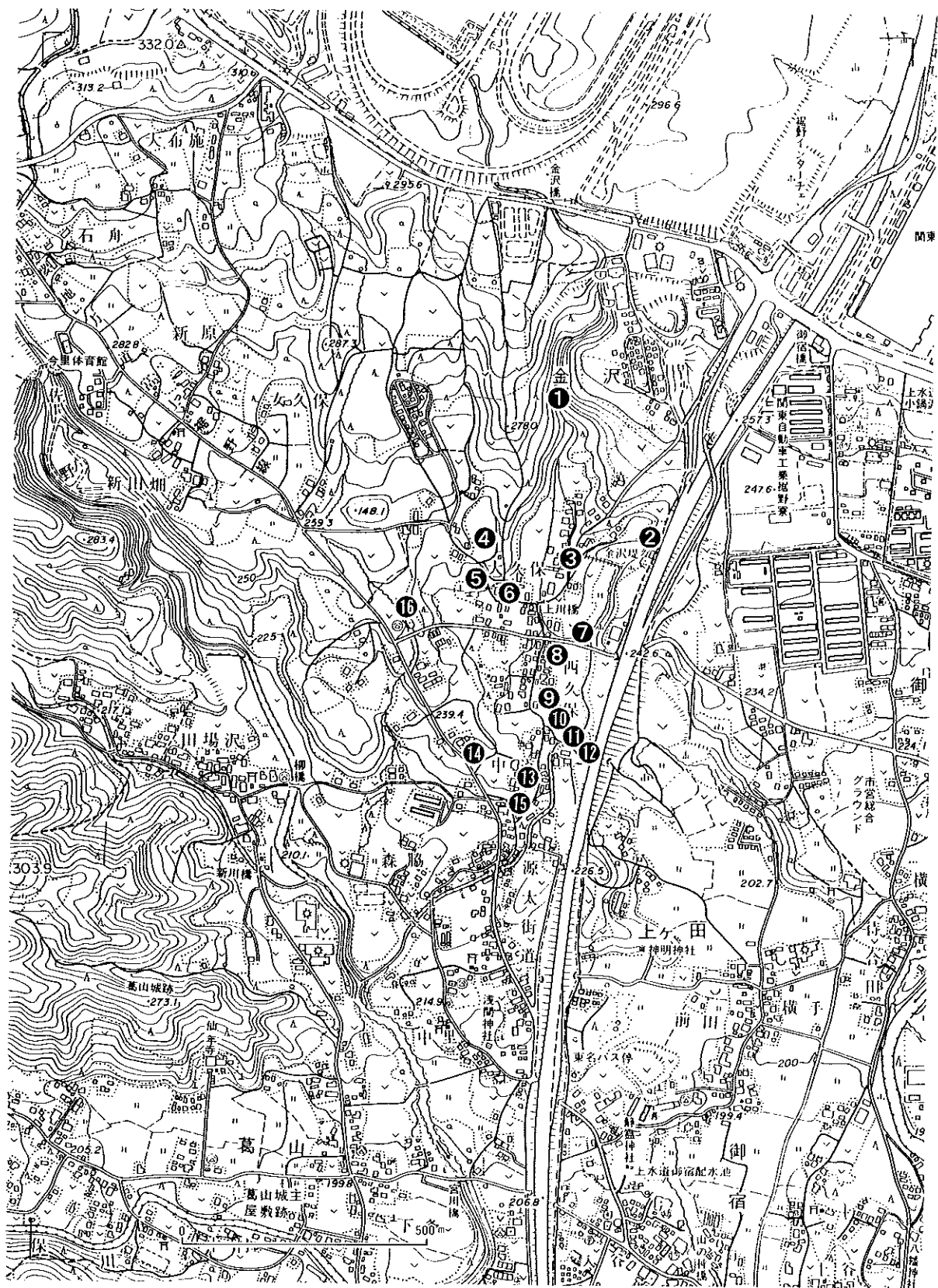
先年、城館跡調査で須山地区一帯を踏査していくうちに、たしか浅間神社の辺りで地名を尋ねたところ、此處は「舟付場」であるとい

う。港とか川の岸边ならともかく須山にはあり得ない不思議な地名なので、その由来を聞いたところ、昔、この辺りは大きな湖があつて、舟が付いたところだといふのである。いま里の岩船地蔵さんはもとは須山から下りてきて、今里にしばらく滞在し、また須山に戻る予定の日に何か災いが起きて、須山に戻りそびれてしまったのだといふ。福田氏は須走から中畑を通つて佐野へまた岩船地蔵さんとは別なコースがあつて、須山に来た岩船地蔵さんがあつたのではないかと考えておられる。岩船地蔵さんが来るといふのは、須山の人々にとって大きな期待や強い願望があつて、その地蔵さんを乗せた船を人々が待ちうけていた所、あるいはその岩船さんが付いた所として後に舟付場といふようになったのではなからうか。

岩船地蔵さんを信仰した人々は、その地蔵さんを造つて祠つたといふ。今里の岩船地蔵さんも村の人が造り祠つたものと思われる。

(中野国雄)

金沢地区



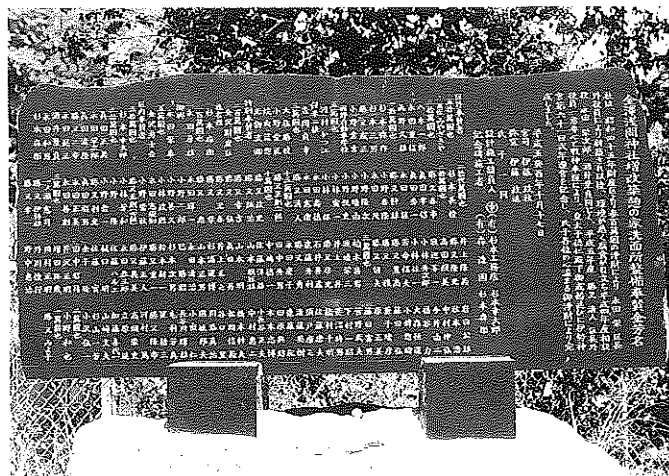
金沢地区



1-2 水神塔



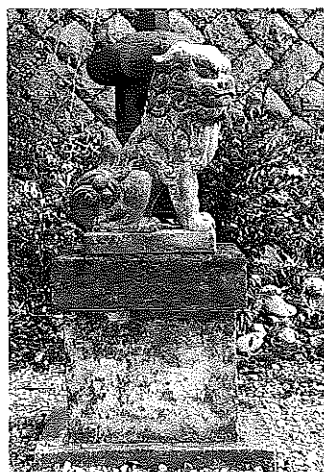
1-1 不動明王



2-2 碑 (増改築芳名)



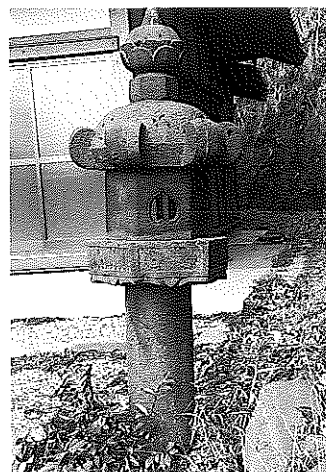
2-1 神社標石



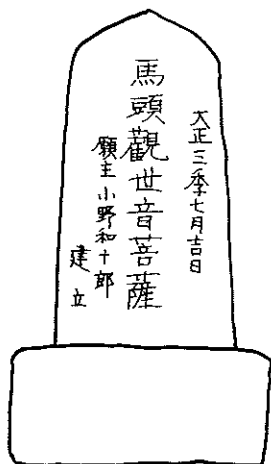
2-6 狛犬



2-5 狛犬



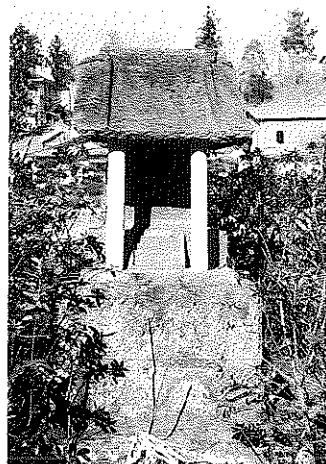
2-3 石灯籠



3-2 馬頭観音



3-1 馬頭観音



2-7 水神塔(石祠)



4-1 碑(石段改築奉納)



3-4 馬頭観音



3-3 馬頭観音



4-4 地藏菩薩



4-3 順礼供養塔(駿豆)



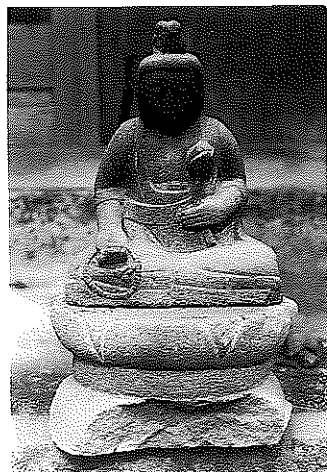
4-2 馬頭観音



5 地藏菩薩



4-6 諸神 (薬師大神)



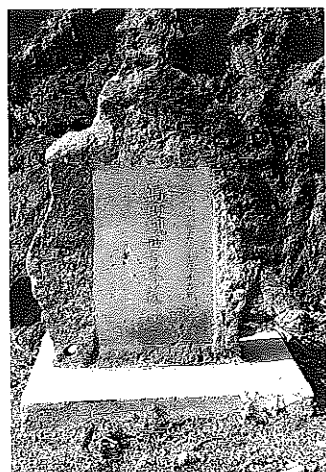
4-5 順礼供養塔 (秩・坂・横)



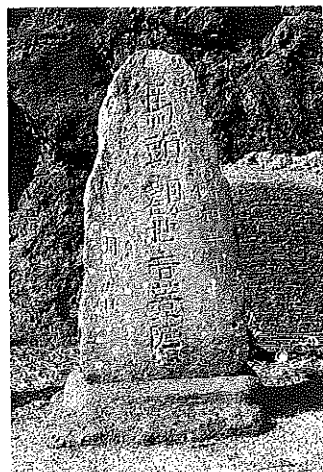
7 碑 (翁頌徳碑)



6 阿弥陀菩薩



9-2 馬頭観音



9-1 馬頭観音



8 馬頭観音



11 馬頭観音



10 道祖神



12-1 不動明王



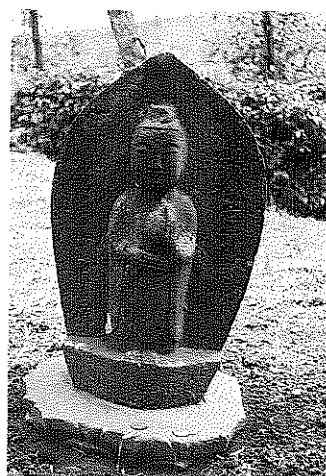
12 東名沿



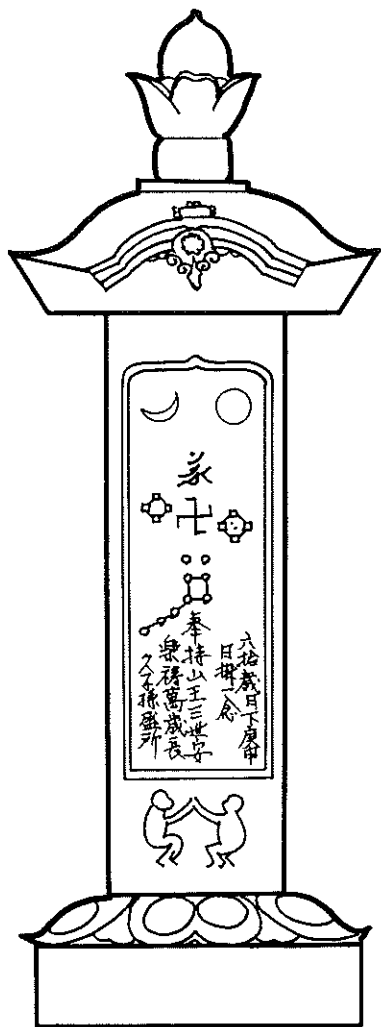
12-4 庚申塔



12-3 順礼供養塔(秩・坂)



12-2 馬頭観音



12-6 庚申塔



12-5 順礼供養塔 (秩・坂・横)



12-7 順礼供養塔 (駿豆)



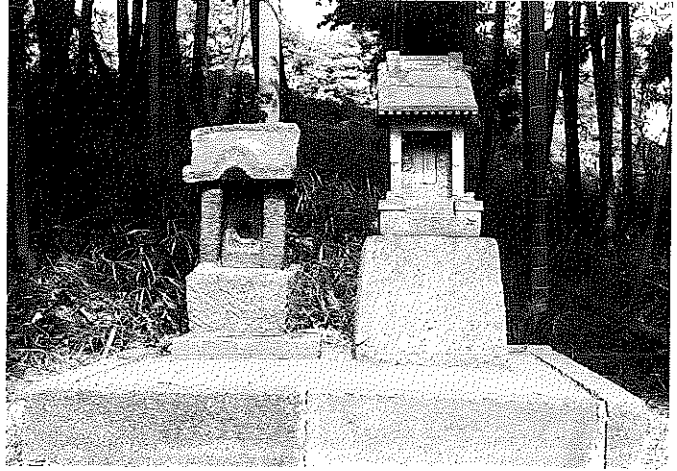
15 水神塔



14 供養塔



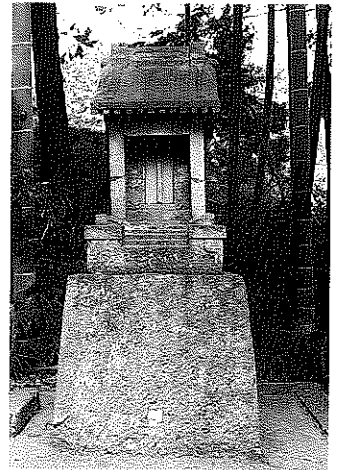
13 馬頭観音



神明宮境内



16-2 山の神塔（石祠）



16-1 山の神塔（石祠）

金沢地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1-1	不動明王	丸彫座像		39×29	
1-2	水神塔	笠付	享和3(一八〇三)	59×37	(正) 奉請水神水生坂 享和三癸亥天 十月卅日 金沢村 (一部欠落)
2-1	神社標石	角柱	平成5(一九九三)	248×180	別記1(145頁)
2-2	碑 (金澤浅間神社増 改築芳名)	板石	平成5(一九九三)	176×215	別記2(145頁)
2-3	石灯籠	灯籠	享保12(一七二七)	179×57	(正) 奉納幽聞大菩薩 享保十二年 未三月吉日 當村施主 小野新太郎
2-4	石灯籠	灯籠		120×36	(等部欠落)
2-5	狛犬			61×52	(正) 納 (背) 永田榮助
2-6	狛犬			61×52	(正) 奉 (背) 永田伊み
2-7	水神塔 (石祠)	祠			(法量計測不能)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
3-1	馬頭観音	櫛型	宝曆13 (一七六三)	81×53	(正) 馬頭観世音菩薩 (右) 寶曆十三未大 (左) 十月十九日 永田源七	
3-2	馬頭観音	舟型	大正3 (一九一四)	58×36	(正) 馬頭観世音菩薩 大正三季七月吉日 願主小野和十郎建立	
3-3	馬頭観音	駒型	大正15 (一九二六)	42×24	(正) 馬頭観世音 大正十五年五月吉日 勝又茂作	
3-4	馬頭観音	自然石	昭和9 (一九三四)	35×22	(正) 花王馬観世音菩薩 昭和九年九月十日建立 杉本久雄建之	
4-1	碑 (石段改築奉納)	自然石		87×54	(正) 一金四百圓也 石段改築費中 寄附者 東京都小野國太郎殿	
4-2	馬頭観音	自然石		44×18	(正) 馬頭観世音 □□廿七年六月吉日 小野儀□ (上部欠落・風化)	
4-3	順礼供養塔 (駿豆)	丸彫立像	延享5 (一七四八)	114×44	別記3 (147頁) (頸部補修/地蔵菩薩)	
4-4	地蔵菩薩	丸彫立像	明和6 (一七六九)	114×43	(台座正) 奉圖名安二万三千返 諸願成就 子孫蒼昌 明和六丑四月 願主仙岩法壽 (頸部補修)	
4-5	順礼供養塔 (秩・坂・横)	丸彫座像	享保6 (一七二一)	45×26	(背) 秩又坂東 本誓善入 横道 真田新左衛門 享保六年丑年八月七日 (頭部欠損/聖観音/金沢地蔵堂内)	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-6	諸神(葉師大神)	自然石	明治18(一八八五)	29×17	(正)葉師大神 (右)小野八朗 (金沢地蔵堂内)
5	地藏菩薩	浮彫立像		53×24	
6	阿弥陀菩薩	自然石		31×31	(正)阿弥陀菩薩
7	碑(勝又一勝又幸作 翁頌徳)	自然石	昭和42(一九六七)	183×149	別記4(147頁)
8	馬頭観音	自然石	昭和6(一九三一)	61×43	(正)馬頭観音菩薩 昭和六年 四月十八日 小野勇逸
9-1	馬頭観音	自然石	昭和5(一九三〇)	63×38	(正)馬頭観世音菩薩 昭和五年 二月十五日
9-2	馬頭観音	自然石	昭和10(一九三五)	70×47	(正)馬頭観世音菩薩 昭和十年六月十六日 真田氏
10	道祖神(双体)	くり抜 立像	文化11(二八一四)	106×106	別記5(147頁)
11	馬頭観音	舟型	昭和14(一九三九)	44×29	(正)愛鷹 馬頭観世音菩薩 昭和十四年三月廿一日 勝又森作

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
12 1	不動明王	舟型座像	享保6 (一七二二)	57 × 31	(正) 爲幽靈 享保六年 四月二十八日 小野新太郎 真田新左衛門 (右) 同権三門 同八左衛門 (左) 同佐兵衛 杵本傳三郎
12 2	馬頭観音	舟型立像	享保13 (一七二八)	54 × 33	(正) 馬頭観世音菩薩 爲馬靈享保十三年
12 3	順礼供養塔 (秩・坂)	等唐破風 角柱	享保9 (一七二四)	128 × 50	(正) 奉請大悲観世音菩薩 享保九年 九月吉日 (右) 駿州駿東郡 御厨金澤村 願主 小野新太郎 真田新左衛門 (左) 奉巡禮秩父坂東観音之 大道場祈二世安穩者也 (宝珠一部欠落)
12 4	庚申塔	等唐破風 角柱くり 抜	享保6 (一七二二)	111 × 47	(右) 村中守庚申多年人彫石十像以遂供養者也 駿州駿東郡鮎澤庄金澤村中立 馬 享保八年辛丑五月吉日深良村興禪寺教巖書 (左) 青面金剛明王
12 5	順礼供養塔 (秩・坂・横)	山型角柱	享保11 (一七二六)	101 × 49	別記6 (147頁)
12 6	庚申塔	等唐破風 角柱	寛文7 (一六六七)	135 × 53	別記7 (147頁) (二猿浮彫)
12 7	順礼供養塔 (駿豆)	山型角柱	寛延4 (一七五二)	92 × 42	別記8 (148頁)
13	馬頭観音	自然石	明治36 (一九〇三)	67 × 67	(正) 馬頭観世音 明治三十六年 五月吉日 勝又氏

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
14	供養塔	駒型	正徳1 (二七一)	65×37	(正) □□□□□□□□□□ 右意趣著信□ 施主金澤村任人 勝又伊右衛門也 向吹慶赤子息 □之清身心五朗 (背) 峯 正徳元年辛九月吉等日
15	水神塔	自然石	昭和41 (一九六六)	55×37	(正) 水波仲賣神 昭和四十一年一月吉日 施工金沢第一組
16-1	山の神塔 (石祠)	祠		128×55	
16-2	山の神塔 (石祠)	祠		84×43	

別記1 神社標石

(正) 金澤浅間神社

(右) 奉納平成五年十月吉日杉本森衛

(背) 駿州駿東郡下御厨領金澤村

氏子安全祈鍵取勝亦半左衛門 名主杉本九右衛門

組頭永田栄之助 百姓代勝亦常左衛門

干時文政十三年寅年正月大吉日

年行司明王寺寛海代

金澤 (旧金澤村) は、愛鷹東麓に連なり、東方に箱根連山を望み、東北方向に大野原が展開する小丘陵に囲まれた農村であった。近世に入ると金澤は藩政時代をとおして葛山、上ヶ田の一部と共に松平数馬の旗本

別記2 碑 (金澤浅間神社増改築芳名)

(正) 金澤浅間神社増改築憩の家洗面所整備奉賛芳名

(台座正) 奉納 (有) 森造園

領であった。金澤浅間神社の創建は祥かではないが早くに建立されたと思われる。文政十一年、十三年の奉納の札が残されているが、村方三役を代表して名主杉本九右衛門が氏子 (村人) の安全を祈願し納めたものである。九右衛門は、神仏にたいする崇敬の念が厚い名主であったと伝えている。五穀農壊、疫病退散の祖先の心は、現代に通ずるものがある。ここに記録を再現し後世に伝えるものである。

社は、昭和四十五年財産区より参百萬圓の淨財により
永田栄区长外役員により新築され以後、環境が悪く腐
食が目立ち平成四年相談役永田栄次郎、酒井景良同じ
く、平成五年度勝又清人区长外役員一意専心と敬神奉
護により、皇太子徳仁殿下御成婚並びに伊勢神宮第六
十一回式年遷宮を記念し、氏子各位の心温まる御淨財
により完成しました。

平成五癸酉年十月十七日

宮司伊藤政秋 弥宜伊藤政進 氏子一同

設計施工請負人[㊟](有)杉本工務店杉本幸太郎

記念碑施工者(有)森造園杉本森衛

区外奉賛者五拾萬圓也業匠みやざきや

三拾萬圓也八木一郎 永田重信 眞野久雄

一拾萬圓也杉本弥作 杉本三男 勝又成正 小野倉吉

裾野自動車学校 五萬圓也河村かつ江

餅米二俵沓間貞幸 三萬圓也大塩勝俊 小野愛臣

焼肉・菜惣 光物流[㊟]

特別奉賛者二百萬圓也金沢財産区 社名標杉本森衛

一百萬圓也永田房雄 御與永田榮泰

五萬圓也金沢勇士会

区内奉賛者五拾萬圓也杉本幸太郎

三拾萬圓也眞田正義 永田栄次郎 眞田清隆

勝又二市 永田晃正 酒井景良 永田和男 杉本森衛

二拾貳萬圓也杉本長俊 二拾萬圓也勝又春市

眞田孝信 眞田秀一 永田護 勝又静雄 小野春隆

永田茂 小野隆次 小野晴由 小野悦史 小林寅一

小林保 永田壽徳 永田憲康 勝又清人

十五萬圓也勝又正則(一組) 十萬圓也勝又政光

勝又誠治 勝又幸吉 勝又弘 勝又光春 勝又章

勝又恵 永田輝一 小野二郎 小野善久 小林政則

永田憲規知 小野常秋 勝又正則(七組) 小林芳和

小野隆 小野常一 勝又利光 眞田梅男 永田正美

永田義則 五萬圓也一ノ瀬憲司 勝又伊勢雄

勝又孝一 井上隆義 勝又隆光 高田照美 渡辺峯一

小林秀次郎 小林佐一 若命信夫 勝又豊高 勝又穰

勝又留美 三萬圓也柏木昌男 渡邊栄三 井上昇

勝又啓光 石井善蔵 遠藤秀利 勝又勇 永田慶子

田中秀男 中嶋徳一 佐藤洋雄 山本規矩雄 山本明

眞田昇 井上正之 杉浦道博 山本正男 永田清治

巴勝昭 杉本次男 鈴木新一 勝又重一 伊藤正人

勝又義美 永田恭三郎 佐藤ハルエ 樋口明 佐藤實

金子稔 田中照司 井沢正明 増田路歳 川村正明

外川俊行 野中恵治 岩田公雄 秋本浩 中村伸弘

今井由二 福谷力 大森恒道 小錦惣助 藤田弘

兼子晴彦 原正美 藤田富男 菅野武夫 下村一昭

菱沼時男 能村千明 佐藤康夫 須戸康之 清藤英樹

遠藤紀 田原典昭 木本忠博 小長谷正夫 中村恵二

橋本幹夫 松岡信義 谷口豊 川添真治 開坂邦夫

小出仁 長谷川輝雄 毛利芳真 星精三 勝又隆市

河村篤 高岡崇史 立原進 加藤喜代一 山崎文夫

杉山一芳 小沢弘一 二萬圓也小野和也

一萬圓也勝又みよ子

(台座正) 奉納(有) 森造園

別記3 順礼供養塔(駿豆)

(台座正) 奉供養駿豆卅四所 延亨五辰 六月吉日

(台座右) 施主真田新九衛門母 同人妻 同治兵衛

勝間田平三良 小林彦八良

(台座左) 永田源七郎母 同□右衛門 同新五良

小野半七良娘 秋本平右衛門 同九兵衛妹

(台座背) 同九右衛門 小野三良兵衛母

下和田村真田傳佐衛門母

別記4 碑(勝又一 勝又幸作翁頌徳)

(正) 勝又一 勝又幸作翁 頌徳碑

御殿場線岩波駅の開設に伴ひ金沢御宿新田間に生産物搬出入路の必要を痛感し當時部落民の総意を一身に担ひ両人は殆んど寢食を忘れ東奔西走時に直接知事に面接或は地元選出遠藤代議士を通じて建設省に陳述し遂に総工費二百万円(補助金五割地元負担五割)と更に供出人夫六百二十人(人夫賃一人百五十円)を以つて全長千六百米有効幅員四米半の道路を昭和廿三年第一期廿四年第二期工事に着手同廿五年完成の域に到達す茲に両翁の遺徳を稱へ頌徳碑を建立し永く後世に傳ふ昭和四十二年十二月八日

元建設大臣 衆議院議員 遠藤三郎書

別記5 道祖神(双体)

(右) 文化一甲戌年 三田源藏 勝又限藏

(左) 正月十四日 世話人 永田六郎右衛門 小野藤左衛門

(土台工事記念) 材料寄附者区长真田勲

敷地寄附者渡邊栄一

昭和四十四年十二月吉日金沢区

別記6 順礼供養塔(秩・坂・横)

(正) 奉請觀世音菩薩

(右) 駿州駿東郡御厨金澤村 秩父坂東願主 宗松空禪

南誉了無 眞田兵藏

(左) 横道順禮願主 眞田新左衛門内 同氏□兵衛 同人母

勝間田半左衛門内 同氏又八郎母 同氏津磨

享保十一丙午年九月吉祥日

別記7 庚申塔

(正) ○ 未天 卅六拾歳月下庚申日掛一念奉持

山王三世安樂禱萬歳長久子孫盛所

(背) 三界万靈 頓證佛樂 諸願敬白

(左) 會任人有善根功德施主等 當金□ 長田二人

妙金上田 小林三人 角□ 杉本四人 □□中人

(右) 直指人身見生成佛 圖貴自□□身満足叶意者也

寛文七年丁未三月拾六日 内儀 勝間田三□
内□三人 園田六人 彦十 小野五人

別記8 順礼供養塔(駿豆)

(正) 奉順礼駿豆觀音塔 天下泰平 國土安全

(右) 寛延四未七月日

(左) 駿州金澤村

(台座正) 小野三左衛門母 同仲右衛門内 同半十良娘

永田源七良母 秋本九右衛門

(台座右) 勝田半右□ 真田新九□ 同定右衛門 同□

永田甚右門

(台座左) 上ヶ田村 土屋傳七良母

裾野の石造物点描

金沢 北斗七星の庚申塔（12―6）

数多い庚申塔の中でも金沢の庚申塔は変わっていて興味深い。四角い石柱の一面に北斗七星が描かれている。

庚申講に対する一般の理解は、庚申の日には講を開いて仲間が寄り集まり夜を過ごすという程度であり、講の象徴の石碑にもただ「庚申（塔）」と文字のみ刻んでいる場合が多い。文字碑のほかにも青面金剛や猿田彦大神等の像塔もあるが、講員がそれらの像の意味を理解している例は少ないのが現状である。

庚申講は干支の庚申（かのえさる）の日に開かれている。六十日間に一回まわってくる。干支は歳にも付いているので、やはり六十年に一度の庚申年は「縁年」と称され、特別な年と考えられている。この年、富士の信仰登山が盛んに行われてきたことはよく知られたことである。

庚申講のように干支と結びついた講には、ほかに甲子（きのえね）講などが知られる。干支による信仰は十二支や十干を易の基本とした陰陽暦道に始まることが多く、教義は難解で一般民衆には深く理解されないまま信仰される場合が多い。したがって庚申講のように、「庚申さんの夜はおしやべりするものだ」（三島市新谷）などといった分かり易く単純な理解の仕方でも伝承されている。

北斗七星の庚申塔は陰陽暦道により刻まれた典型例であると思わ

れる。北斗七星を軸に一日一回転する北極星は、柄杓の柄の先端となる星（揺光）の動きを十二等分して時の目安とし、旧暦中段の十二直を決め、それぞれの位置から日の吉凶を占う星とされる。

十二直には、建（たつ）、除（のぞく）、満（まん）、平（たいら）、定（さだむ）、執（とる）、破（やぶる）、危（あやう）、成（なる）、納（おさむ）、開（かい）、閉（とず）の十二が配当され、それぞれに吉凶が付随された。例えば「開」は、「天帝が宝蔵の扉を開く日。だからこの日は蔵を開いたり、諸芸を学び始めるに良し。事業を始めるに大吉」という。陰陽暦道では庚申の日の干支は、庚が金性で（五行の木・火・土・金・水）の兄（干支の兄・弟）で、申も同じく金性であるから、この両金性の組み合わせは最も剛性の強い日であると解釈し、注意が必要と説いている。

また庚申と七という数字の縁の深さを語る伝承がある。「北斗七星の七つの星から、庚申待の時、七色の菓子をお供えるとか、供物の洗



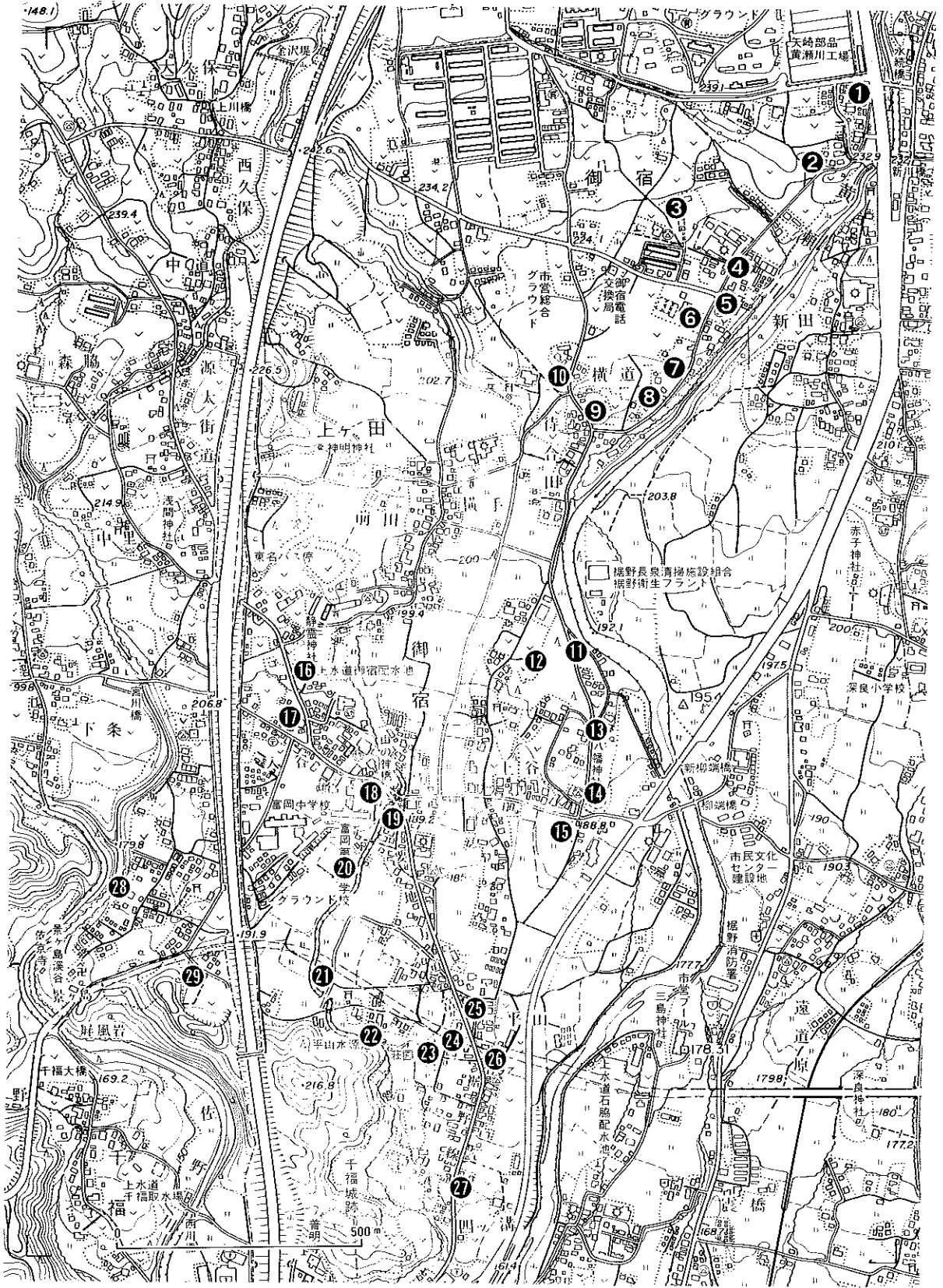
「い米は七回洗う」という。また七という数字は七曜を思い浮かべる。七曜は古くから人類が知っていた五個の惑星（火・水・木・金・土星）に太陽と月を加えたものである。現代人にとって七曜は一週間という時の目安になっているが、旧暦時代にはこれもまた日の吉凶を占うことに利用されていたのである。

このように庚申と北斗七星の関係は、古く中国において密接なものとされてきたという。北斗七星が人の寿命や運命をつかさどるといふ考えは、道教や仏教の教えにあつた。庚申日に三戸さんしが昇天して人の罪科を告げる天帝とは天の星であり、すなわち北斗七星だとされる。三島・清水町などに残る庚申待ちで唱えられる「コウシンデ、コウシンデ、マイタリ、ソワカ」の真言は北斗七星の総呪であると言われる。

ところが、裾野金沢の北斗七星については地元で庚申講も残っておらず、伝承もないため詳細は分からない。何処から金沢に伝えられたものか、それを受け入れた人々とは。こうした疑問について、まだまだ調査の余地が残された一基である。

（杉村 齊）

御宿地区



御宿地区



2 馬頭観音



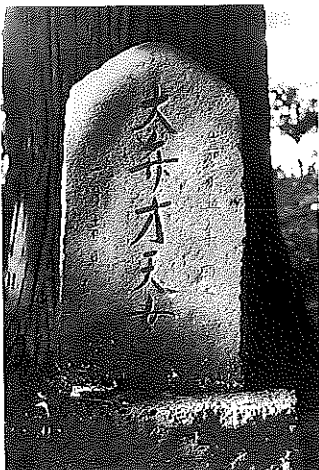
1 道祖神



3-2 碑（拝殿新築記念）



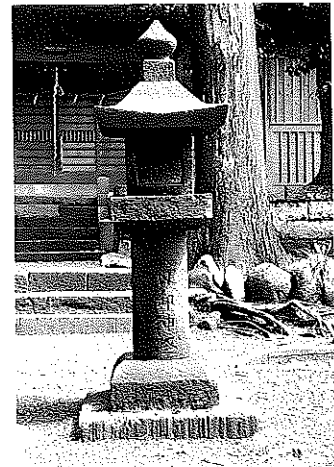
3-1 神社標石



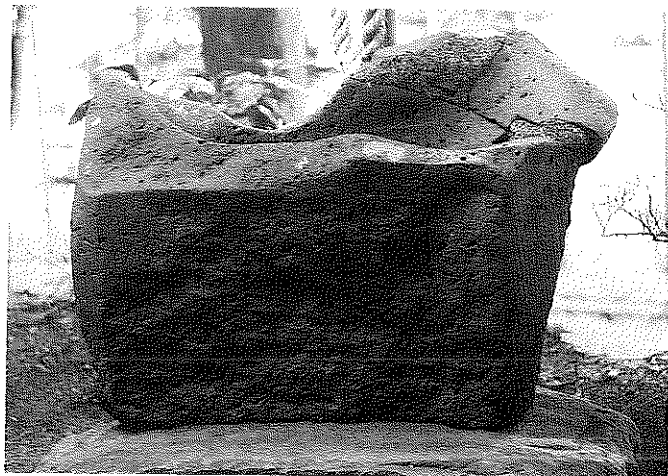
3-6 弁財天



3-4 石灯籠



3-3 石灯籠



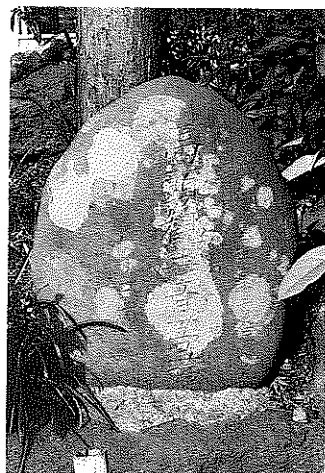
3-7 手洗石



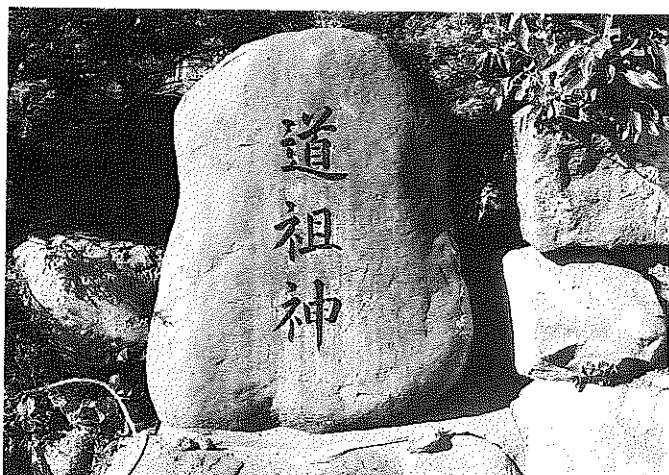
5 馬頭観音



4-2 万霊塔



4-1 馬頭観音



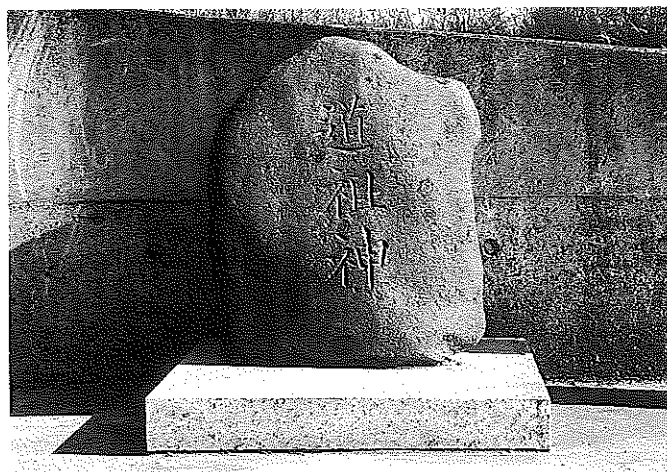
6 道祖神



7-2 名号塔



7-1 庚申塔



9 道祖神



8 馬頭観音



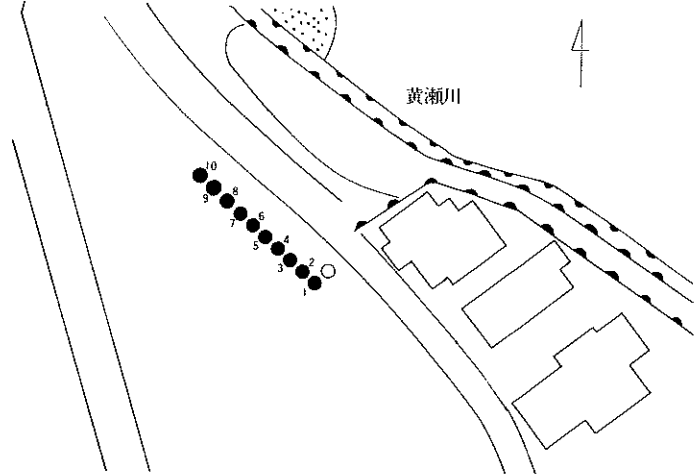
10-2 名号塔 (道標)



10-1 順拝納経供養塔



11-1 石造物（不明）



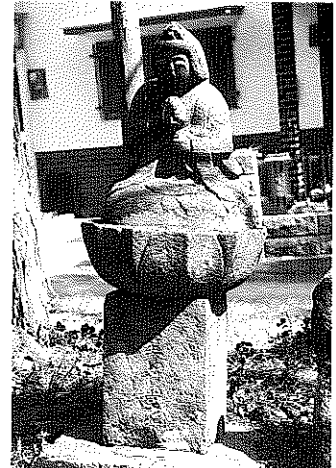
11 御宿大森



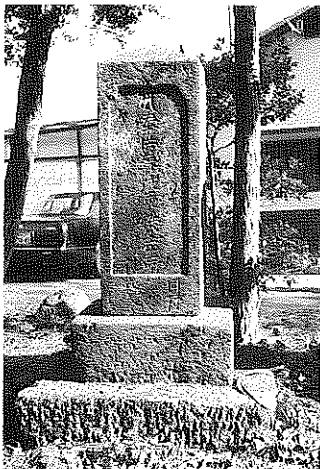
11-4 順礼供養塔（西・坂・秩）



11-3 順礼供養塔（横）



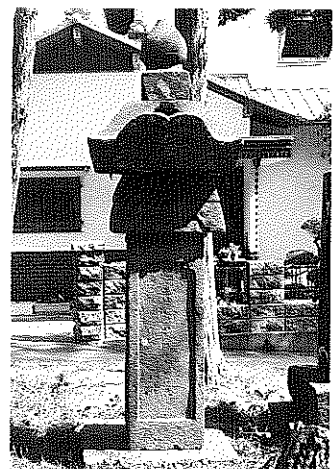
11-2 順礼供養塔（横堂）



11-7 順礼供養塔（坂・秩）



11-6 順礼供養塔（西）



11-5 順礼供養塔（坂・西）



11-10 供養塔



11-9 順礼供養塔 (西・秩・横)



11-8 庚申塔



12-2 馬頭観音



12-1 馬頭観音



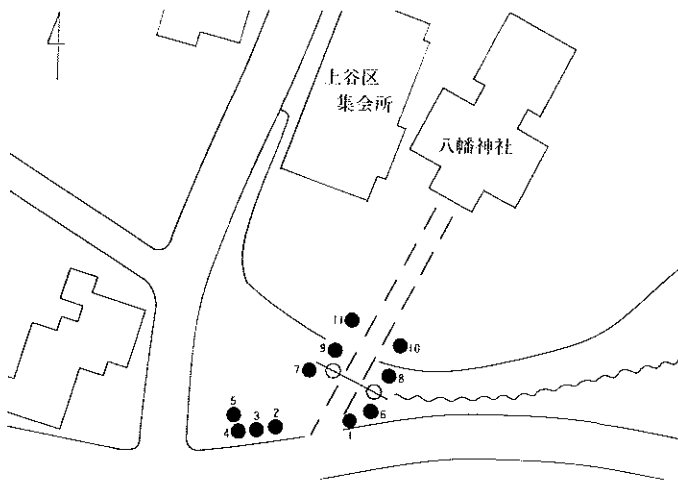
13-2 馬頭観音



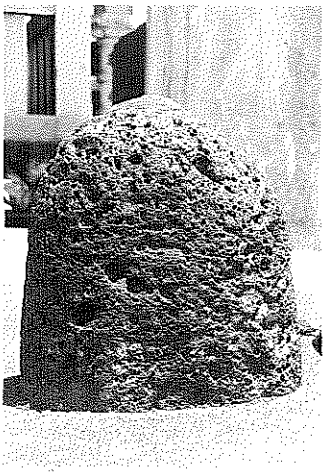
13-1 馬頭観音



14-1 神社標石



14 八幡神社



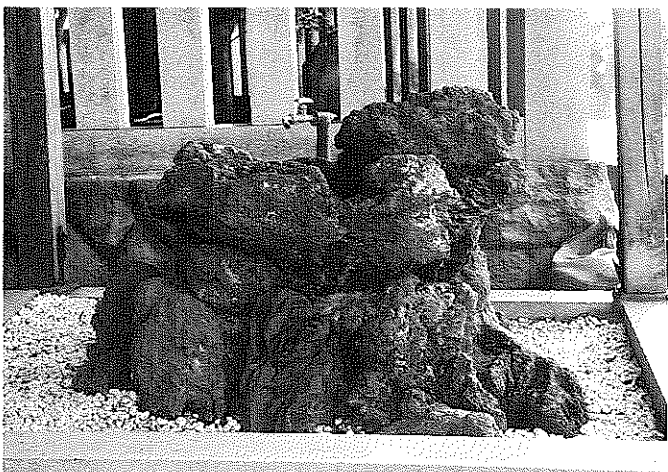
14-4 道祖神



14-3 道祖神(部分)



14-2 庚申塔



14-6 手洗石



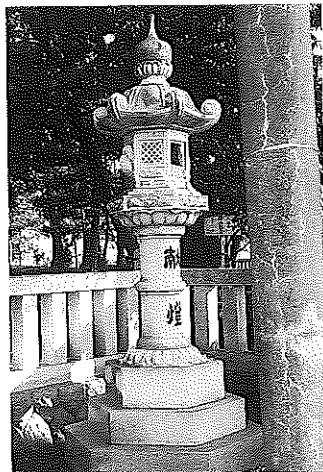
14-5 道祖神



14-7 碑（境内玉垣建設の記）



14-9 石灯笼



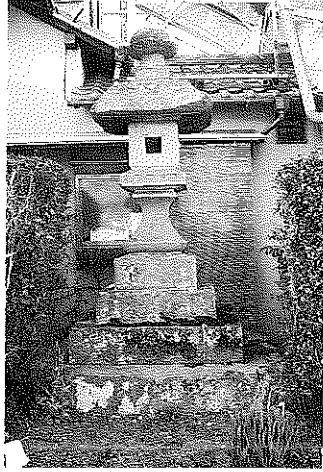
14-8 石灯笼



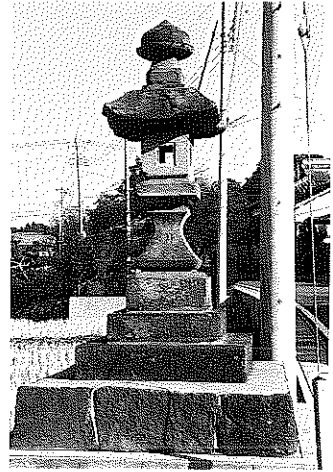
14-11 石灯笼



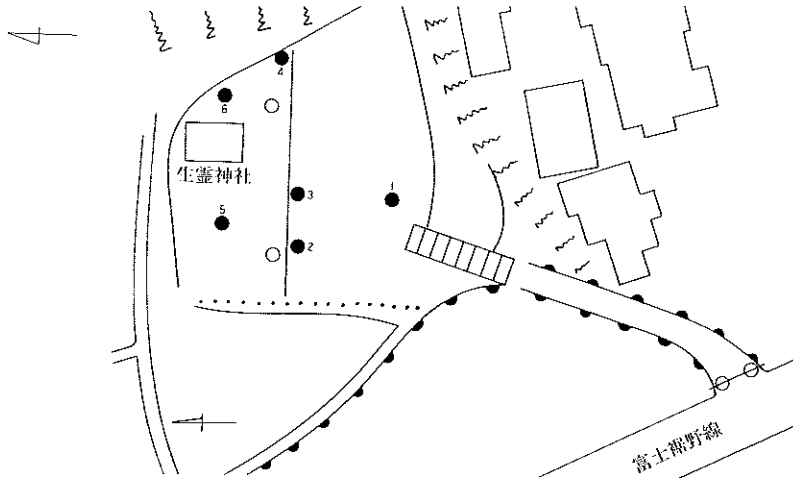
14-10 石灯笼



15-2 石灯笼



15-1 石灯笼



16 生霊神社



16-2 碑 (町制十周年記念)



16-1 碑 (富岡生霊神社建設)



16-4 碑 (岩瀬健吾翁頌徳)



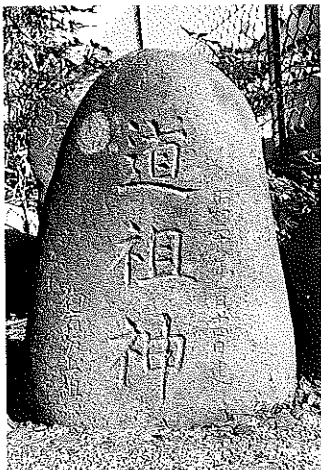
16-3 手洗石



16-6 碑 (表彰碑)



16-5 碑 (表忠碑)



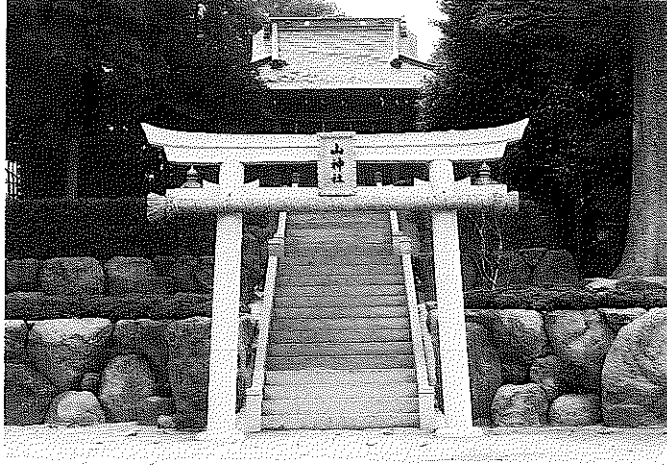
17-3 道祖神



17-2 馬頭観音



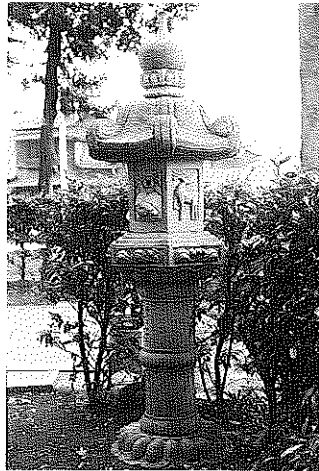
17-1 名号塔 (道標)



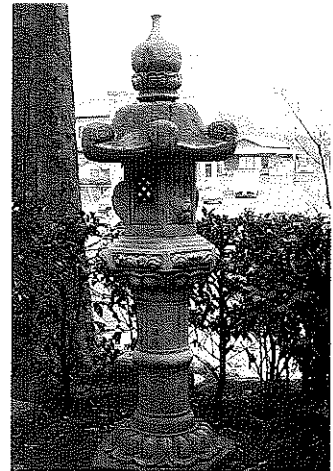
18-1 鳥居



18-5 狛犬



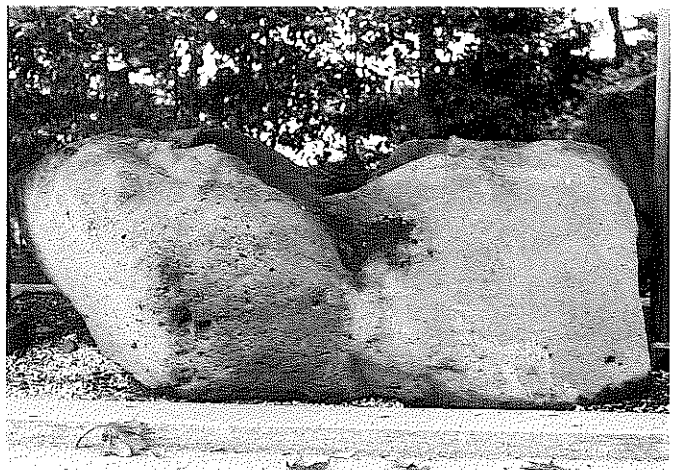
18-3 石灯笼



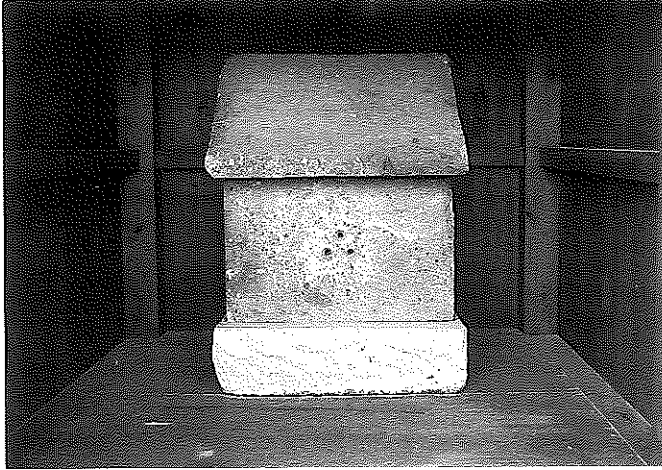
18-2 石灯笼



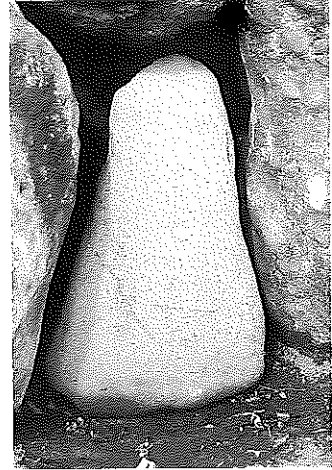
18-6 狛犬



18-4 手洗石



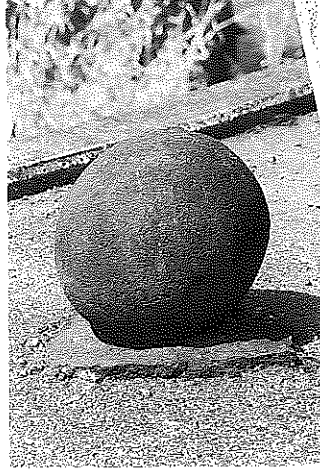
20 諸神（稲荷神）



19 馬頭観音



22-1 名号塔



21-2 道祖神



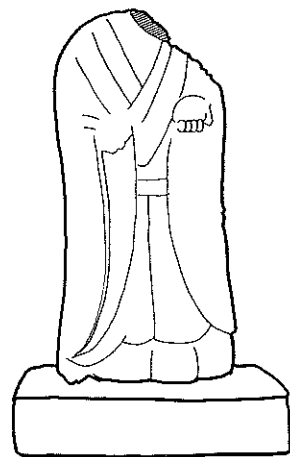
21-1 道祖神



22-4 水神塔



22-3 碑（記念碑）



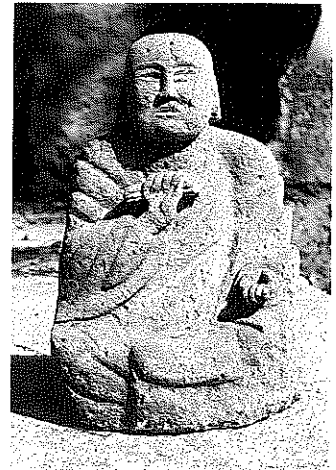
22-2 地藏菩薩



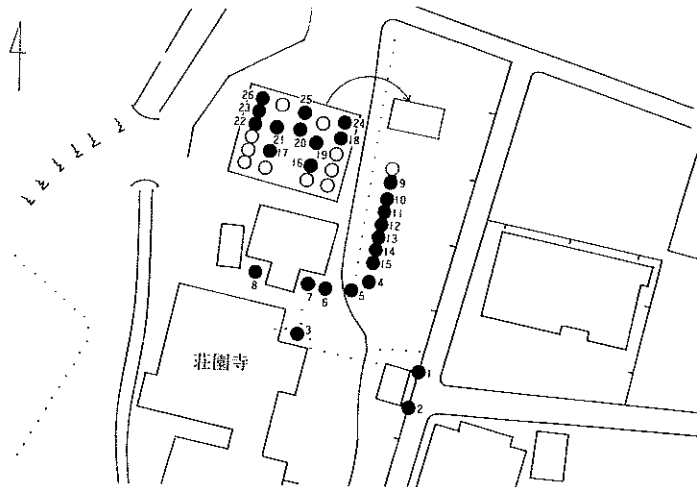
22-7 名号碑



22-6 俱利伽羅不動



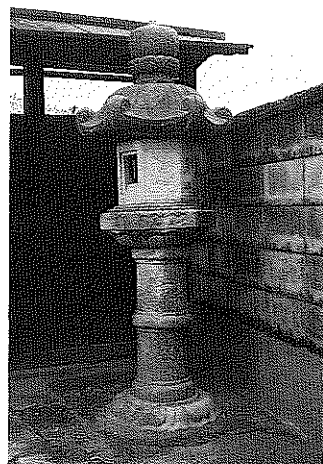
22-5 石造物(弘法大師)



23 莊園寺



23-2 万靈塔



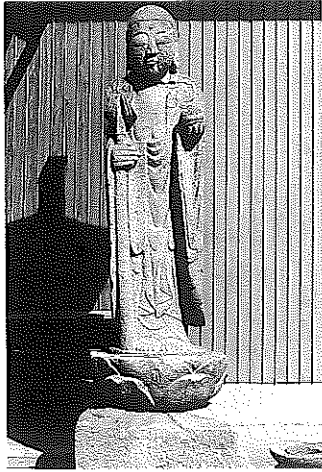
23-1 石灯笼



23-4 庚申塔



23-3 手洗石



23-7 地藏菩薩



23-6 庚申塔



23-5 常夜塔



23-9 地藏菩薩



23-8 馬頭観音



23 地藏菩薩 (六地藏)



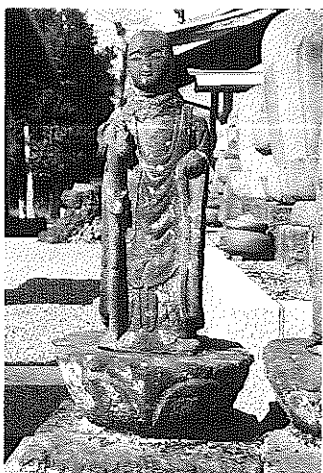
23-12 地藏菩薩



23-11 地藏菩薩



23-10 地藏菩薩



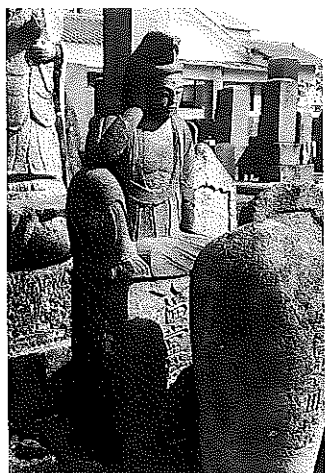
23-15 地藏菩薩



23-14 地藏菩薩



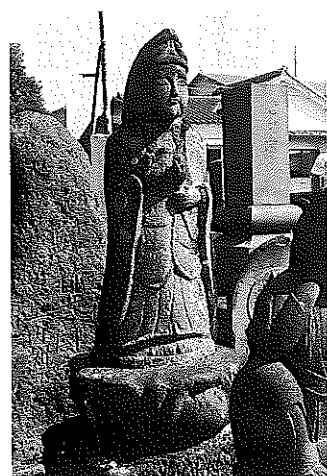
23-13 地藏菩薩



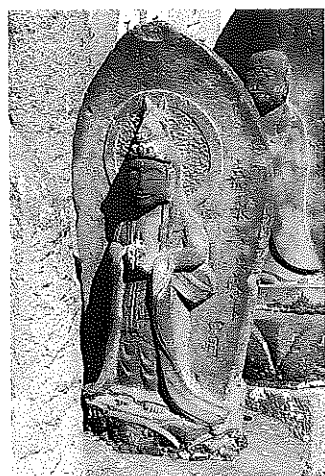
23-16 順礼供養塔（横）



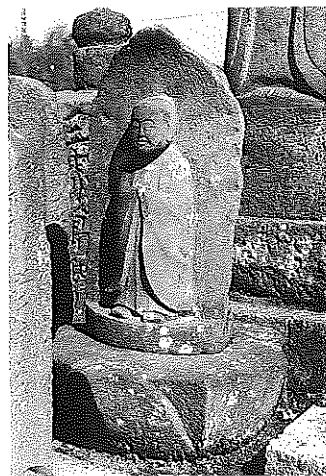
莊園寺境内



23-19 聖観音



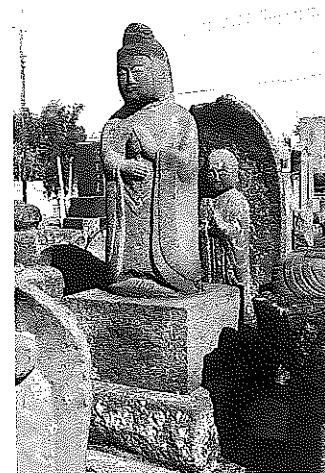
23-18 馬頭観音



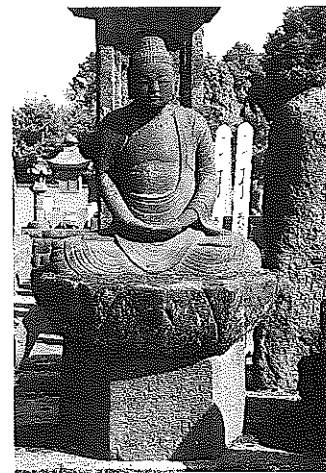
23-17 地藏菩薩



23-22 万霊塔



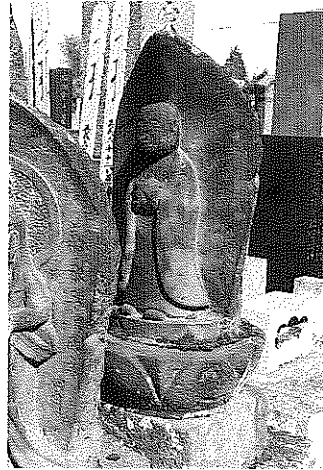
23-21 順礼供養塔（横）



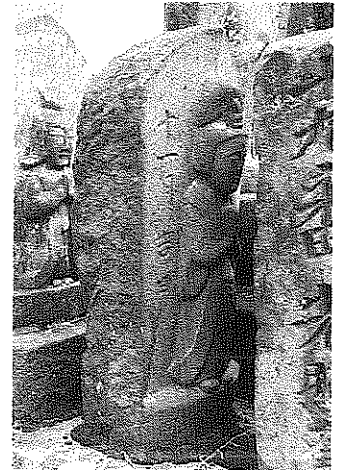
23-20 万霊塔



23-25 庚申塔



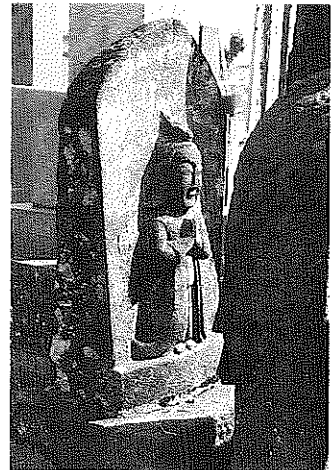
23-24 地藏菩薩



23-23 馬頭觀音



24 万盡塔



23-26 馬頭觀音



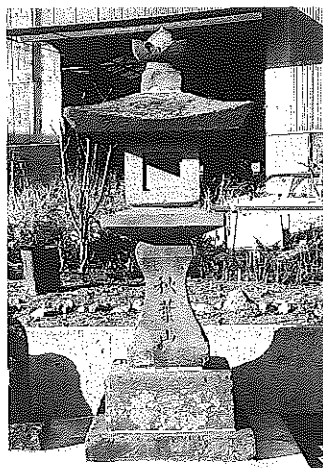
御宿307 下湯山氏邸前



25-3 道祖神



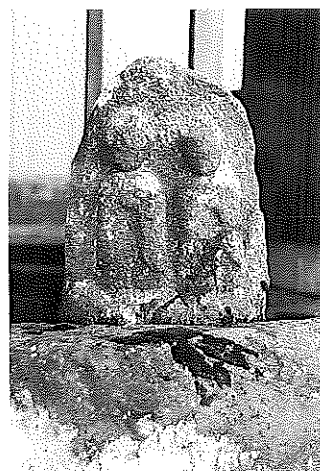
25-2 道祖神



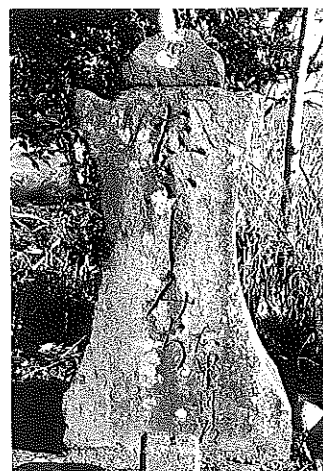
25-1 秋葉山供養塔



28 馬頭観音



27 道祖神



26 常夜塔 (部分)



29 供養塔

御宿地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
3-1-7	手洗石	自然石		76×85	(上部補修)
3-1-6	弁財天	駒型	嘉永5 (一八五二)	67×41	(正) 大弁才天 嘉永五年 十一月吉日 願主 己待講中
3-1-5	石段礎石	山型角柱	天保6 (一八三五)	48×15	別記2 (184頁) (一対)
3-1-4	石灯籠	灯籠	大正10 (一九二一)	167×72	(正) 奉納御神燈 (右) 大正十年四月吉日建之 御宿吉田伴次郎時二年八十五才也
3-1-3	石灯籠	灯籠	明和4 (一七六七)	157×64	(正) 奉納御神燈 (背) 明和四天丁亥十一月吉日 御宿村草
3-1-2	碑 (子ノ神社拝殿新築記念)	板石	昭和62 (一九八七)	122×90	別記1 (184頁)
3-1-1	神社標石	角柱	昭和62 (一九八七)	224×118	(正) 御宿新田 子ノ神社 杉本國男 杉本若良 土屋誠吾 湯川輝夫 湯川俊信 (背) 昭和六十二年十月吉日 奉納 湯川圭三
2	馬頭観音	舟型立像	文化6 (一八〇九)	66×40	(正) 文化六己巳四月吉日 施主村中 (背) 世話人 伴二右衛門 直右衛門
1	道祖神 (双体)	浮彫立像	安永8 (一七七九)	52×44	(正) 安永八亥天 □ 吉日中村集 (光背上部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
4-1	馬頭観音	自然石	明治21(一八八八)	58×45	(正) 馬頭観世音菩薩 明治二十一年二月三日 古田巴藏
4-2	万霊塔	自然石	明治43(一九一〇)	97×56	(正) 古田圓藏 有縁 無縁 三界万霊 法界 舍識 等 明治四十三年八月十五日 古田圓藏□立之
5	馬頭観音	舟型座像		66×40	(正) 富岡村御宿 土屋重吉之立
6	道祖神	自然石	昭和46(一九七二)	173×124	(正) 道祖神 (背) 昭和四十六年一月三日建之
7-1	庚申塔	笠唐破風 角柱	延宝6(一六七八)	157×51	別記3(18頁) (二) 猿浮彫
7-2	名号塔	舟型		74×41	(正) 又次次次 爲一馬牛也 九月十四日 施主
8	馬頭観音	櫛型	明治18(一八八五)	38×20	(正) 馬頭観世音菩薩 明治十八年四月 大森恭太郎
9	道祖神	自然石	昭和17(一九四二)	53×42	(正) 道祖神 昭和十七年五月吉日 御宿新田下組

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11 6	順礼供養塔(西)	角 笠唐破風 柱	正徳3 (一七二三)	142 × 58	別記7 (184頁)
11 5	順礼供養塔(坂・西)	角 笠唐破風 柱	正徳1 (一七二一)	144 × 48	別記6 (184頁)
11 4	順礼供養塔 (西・坂・秩)	山型角柱	享保8 (一七三三)	101 × 62	別記5 (184頁)
11 3	順礼供養塔(横)	丸彫座像	享保20 (一七三五)	89 × 46	別記4 (184頁) (頸部補修・宝冠欠落・台座位置相違ノ如意輪)
11 2	順礼供養塔(横堂)	丸彫座像	元文5 (一七四〇)	94 × 40	(正) 奉供養横堂順礼 (右) 元文五庚申年 磯部仁右衛門 勝股市左衛門 (左) 三月十八日 勝股市郎兵衛 勝股権八郎 (聖観音)
11 1	石造物(不明)	自然石		47 × 24	
10 2	名尊塔(道標)	自然石	天保6 (一八三五)	56 × 23	(正) 南無阿弥陀佛 天保六年 未十二月日 右かつ□□ 左すやま
10 1	順拝納経供養塔	自然石	明治5 (一八七二)	57 × 44	(正) 奉納神佛順拝納経供養堂 (右) 越前国敦賀郡池子町 白木屋喜助行年五十三才 安政元寅年三月十八日 (左) 明治五申年五月 施主御宿村 悴杵本文造

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
11-7	順礼供養塔(坂・秩)	山型角柱	延享1(一七四四)	120×76	別記8(185頁)
11-8	庚申塔	自然石	寛延2(一七四九)	89×93	(正) 庚申甲子供養塔 寛延二己巳三月廿八日 真田与左衛門 岩瀬徳左衛門 小磯文左衛門 湯山半七郎 西川清七郎 同茂兵衛 湯山半七郎 中川利兵衛 湯山平次郎 同清兵衛 同彦十郎 勝又長衛門 向西寺
11-9	順礼供養塔 (西・秩・横)	山型角柱	宝曆12(一七六二)	127×83	別記9(185頁)
11-10	供養塔	櫛型角柱	享保7(一七二二)	112×66	(正) 順礼供養塔 六十六部宿縁深 為現當 世菩提也 享保七壬寅天 八月廿二日 施主敬白 彦左衛門 権左衛門
12-1	馬頭観音	浮彫立像	寛政4(一七九二)	115×44	(正) 寛政四子年 十一月十九日 御宿催主 勝俣善藏 (光背一部欠落)
12-2	馬頭観音	舟型立像		41×28	
13-1	馬頭観音	舟型立像	安政6(一八五九)	67×36	(正) 安政六年未年 十二月 勝又平右衛門
13-2	馬頭観音	舟型立像	文化5(一八〇八)	101×63	(正) 文化五戊辰年 十一月吉日 施主村中 (背) 世話人武右衛門 惣左衛門 源右衛門 太郎右門 口口右衛門 半蔵 (舟型上部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
14-1	神社標石	角柱	昭和62(一九八七)	240×140	(正) 御宿八幡宮 (背) 昭和六十二年九月吉日建之	
14-2	庚申塔	自然石	万延1(一八六〇)	156×100	(正) ○ ○ 庚申塔 入谷 上合 講中 (背) 万延元庚申年 四月吉日	
14-3	道祖神(单体)	浮彫立像	寛政1(一七八九)	60×43	(正) □ 政元酉年 御宿	(光背・頭部欠落)
14-4	道祖神	自然石		38×35		
14-5	道祖神	自然石		40×31		
14-6	手洗石	自然石		66×121		
14-7	碑(御宿八幡宮境内 玉垣建設の記)	板石	昭和62(一九八七)	154×167	別記10(185頁)	
14-8	石灯籠	灯籠	昭和62(一九八七)	263×150	(正) 献燈 (背) 昭和六十一年九月吉日 裾野市御宿上谷七三番地 勝又徳昭建之	
14-9	石灯籠	灯籠	昭和62(一九八七)	263×150	(正) 献燈 (背) 昭和六十二年九月吉日 裾野市御宿上谷七三番地 勝又徳昭建之	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
16 3	手洗石	自然石	昭和52 (一九七七)	48 × 66	(正) 奉納 昭和五十一年九月 勝又良三
16 2	碑(町制十周年記念)	自然石		43 × 35	(正) 町制十周年記念 裾野町
16 1	碑(富岡生靈神社建設)	板石	昭和62 (一九八七)	150 × 202	別記11 (185頁)
15 2	石灯籠	灯籠	嘉永4 (一八五二)	264 × 180	(正) 御神燈 (背) 嘉永四亥年 八月吉日建之 當村若者中 (右) 安政六未年 八月吉日再建 湯山保三郎富榮 (火袋補修)
15 1	石灯籠	灯籠	天保10 (一八三九)	274 × 191	(正) 御神燈 (背) 天保十己亥歳 八月吉日建為 湯山半石衛門富眞 (左) 安政六己未歳 八月吉日再建 湯山保三郎富榮 (台座背) 石工繁橋清七 翁子紋治郎 同金治 (火袋補修)
14 12	鳥居		安政3 (一八五六)		(柱部) 安政三丙辰歳霜月吉日 願主 湯山保三郎富榮 同金平保豊 石工金次郎 (倒壊)
14 11	石灯籠	灯籠	元禄10 (一六九七)	167 × 45	(正) 八幡宮 □□ 元禄十丁丑年四月日 西川□三良 同与□右門 同弥□□門 同四郎□門 外川源兵衛 勝保権七良 同権右衛門 杵山八助 多田八良左門
14 10	石灯籠	灯籠	元禄10 (一六九七)	168 × 45	(正) 八幡宮 湯山平治良 右重 (背) 元禄十丁丑年四月日

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
18-2	石灯笼	灯笼		144 × 61	(正) 燈 (背) 二代渡邊與志雄六十才一三子五十四才 三代渡邊光永二十九才 みよ子二十六才
18-1	鳥居	明神型	昭和63 (一九八八)	373 × 463	(正面額) 山神社 (左柱背) 昭和六十二年九月吉日 氏子社中
17-4	馬頭観音 (道標)	浮彫立像		31 × 24	(正) 右ふじ山道 左かつら山道 (舟型上部欠落・風化)
17-3	道祖神	自然石	昭和28 (一九五三)	37 × 24	(正) 道祖神 昭和二十八年一月十四日建 御宿坂上組
17-2	馬頭観音	自然石	明治38 (一九〇五)	42 × 37	(正) 馬頭観世音 明治三拾八年 三月吉日 勝又國三郎 建之
17-1	名尊塔 (道標)	自然石		41 × 30	(正) 南無阿弥陀 是より景ヶ嶋に十 [] らお竹 [] 茶軸 製造市川 (下部埋没)
16-6	碑 (表彰碑)	自然石	昭和4 (一九二九)	237 × 130	(正) 表彰碑 (背) 昭和四年拾月壹日 富岡村分會 永田半翁書
16-5	碑 (表忠碑)	板石		304 × 199	別記13 (187頁)
16-4	碑 (岩瀬健吾翁頌徳)	自然石	昭和35 (一九六〇)	157 × 130	別記12 (186頁)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
22 1-1	名号塔	自然石	嘉永1 (一八四八)	122 × 66	(正) 南無阿弥陀佛 (背) 嘉永元年十一月 當村 念佛講中
21 1-2	道祖神 (丸石)	自然石		22 × 21	
21 1-1	道祖神 (単体)	舟型立像		56 × 48	(正) 御宿村
20	諸神 (權何神)	祠		61 × 42	
19	馬頭觀音	自然石	明治34 (一九〇一)	43 × 25	(正) 馬頭觀世音 明治卅四年九月吉日
18 1-6	狛犬		昭和59 (一九八四)	114 × 70	(台座正) 奉 (台座背) 昭和五十九年九月吉日 裾野市御宿 三四一 渡邊かつ 当年九十才
18 1-5	狛犬		昭和59 (一九八四)	115 × 70	(台座正) 納 (台座背) 昭和五十九年九月吉日 裾野市御宿 三四一 渡邊與志雄 当年六十五才
18 1-4	手洗石	自然石	昭和63 (一九八八)	56 × 153	(背) 昭和六十三年八月吉日 葛山 贈瀬戸満
18 1-3	石灯籠	灯籠	昭和54 (一九七九)	144 × 61	(正) 献 (背) 昭和五十四年九月吉日 三代生存記念 初代渡邊與作八十六才 かつ八十四才

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
23-3	手洗石	箱型	明治11 (一八七八)	62×84	別記15 (187頁)
23-2	万霊塔	自然石	寛延2 (一七四九)	143×58	(正) ○ 萬霊塔 (背) 寛延二己二月廿八日 豊年立之
23-1	石灯笼	灯笼		184×88	(正) 奉納 (左) 村内安全 (背) 富岡村御宿 岩瀬健吾 同登志 (宝珠上部欠落・火袋補修)
22-7	名号碑	磨崖碑			(正) 南無阿弥陀佛
22-6	俱利迦羅不動	磨崖碑		97×81	
22-5	石造物(弘法大師)	丸彫座像	明治27 (一八九四)	35×23	(背) 弘法大師行者外川兼基 明治二十七年 十二月下流
22-4	水神塔	浮彫座像		70×50	
22-3	碑(記念碑)	自然石	昭和23 (一九四八)	135×92	別記14 (187頁)
22-2	地藏菩薩	丸彫立像	明治27 (一八九四)	50×28	(背) 子育地藏尊 明治二十七年 十二月下流 造立之 千福 荻田半七 (頭部欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
23 11	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		77 × 39	(台座) 願主空念 辨譽 智詮信女	
23 10	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		78 × 40	(台座) 奇進 願主室口	(頸部補修)
23 9	地藏菩薩	丸彫立像	嘉永3 (一八五〇)	78 × 37	(右) 嘉永三庚戌四月 湯山吟右衛門内	(頸部補修)
23 8	馬頭観音	舟型立像	享和2 (一八〇二)	94 × 50	(正) 享和壬戌総 十月吉日	
23 7	地藏菩薩	丸彫立像	正徳3 (一七一三)	170 × 70	別記18 (188頁)	
23 6	庚申塔	自然石	文政7 (一八二四)	92 × 83	別記17 (188頁)	
23 5	常夜塔	灯籠	寛政9 (一七九七)	168 × 75	(正) 常夜燈 (右) 惣村中 並若者 (左) 寛政九丁巳年 六月吉日 願主 淨真 (背) 世話人 中川宗七 中川惣左衛門 真田専右衛門 西川宗右衛門 外川藤七 (火袋・竿部欠落)	
23 4	庚申塔	角 笠唐破風 柱	正徳5 (一七一五)	158 × 80	別記16 (188頁)	(三猿浮彫)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
23 19	聖観音	丸彫立像		100 × 40	
23 18	馬頭観音	舟型立像	嘉永3 (一八五〇)	71 × 42	(正) 嘉永三庚戌年四月 御宿村 湯山吟右衛門内 (舟型一部欠落)
23 17	地藏菩薩	舟型立像		62 × 41	
23 16	順礼供養塔 (横堂)	丸彫座像	延享2 (一七四五)	81 × 29	(正) 横堂供養塔 (右) 栢木市兵衛母 光照登左舎 (左) 岩瀬長左衛門内 霜空月照信口 須山村小立次 (背) 皆 延享二次乙丑八月日 敬白 (如意輪)
23 15	地藏菩薩	丸彫立像		81 × 37	(台座) 奉加 志村中 (頸部補修)
23 14	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像	延享1 (一七四四)	78 × 36	(台座) 延享元甲子四月日 願主空念 敬白 (頸部補修)
23 13	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		79 × 35	(台座) 勝股彦九郎母 同権八母 市川又右門母 (頸部補修)
23 12	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		80 × 38	(台座) 平法禪定門 同岩瀬 志一慧 (頸部補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
24	万靈塔	自然石		123 × 79	(正) ○ 三界万灵等
23 - 26	馬頭観音	舟型立像	天保14 (一八四三)	66 × 32	(正) 天保拾四年卯四月吉日 湯山吟右衛門
23 - 25	庚申塔	笠唐破風 角柱	寛文5 (一六六五)	170 × 50	別記20 (189頁) (風化)
23 - 24	地藏菩薩	舟型立像	安政6 (一八五九)	84 × 36	(正) 赤堀清海先生身代地藏尊 安政己未年三月 施主湯山吟平保豊 (台座) 當村施主也 磯部作右衛門 西川生左衛門 勝又長右衛門 柏木市兵衛門 願主 了善 (台座左判読不能)
23 - 23	馬頭観音	舟型立像	文化4 (一八〇七)	59 × 34	(正) 文化四丁卯年 十一月吉日 湯山丈左衛門
23 - 22	万靈塔	角柱	延享5 (一七四八)	75 × 22	(正) 三界萬靈 (右) 横堂三十三所 西國三十三所 地藏二十四所 供養塔 延享五天 辰五月日 勝又吉口 湯山平口 岩瀬長口 (左) 十九番光照庵
23 - 21	順礼供養塔(横堂)	丸彫立像	享保9 (一七二四)	102 × 45	(台座正) 奉供親観世菩薩横堂三十三所現當 世之兩益也 于時享保九甲辰 四月日 同行八人 (台座右) 宮内庄門 同内 彦左門 同内 (台座左) 権左門内 長右門 文右門内 市藏 (聖観音)
23 - 20	万靈塔	丸彫座像	享保20 (一七三五)	95 × 61	別記19 (188頁) (阿弥陀如来)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
25-1	秋葉山供養塔	灯籠	文化8(二八二一)	219×91	(正) 奉獻 秋葉山 (右) 文化八末年 十一月吉日 (左) 當村講中 (火袋補修)	
25-2	道祖神(双体)	浮彫立像	延享4(二七四七)	64×54	(正) 延享四年 卯三月吉日 (光背上部欠落・風化)	
25-3	道祖神(双体)	浮彫立像	正徳1(二七一二)	73×45	(正) 正徳元卯天七月吉日 (光背上部欠落・風化)	
26-1	常夜塔(道標)	灯籠	宝暦7(二七五七)	88×77	別記21(189頁) (残存竿・基礎部)	
26-2	五輪塔(部分)			15×24	(火輪止) □ (右) □ (左) □ (背) □ (残存 火輪部)	
27	道祖神(双体)	浮彫立像		98×107		(風化)
28	馬頭観音	櫛型	明治29(二八九六)	57×38	(正) 馬頭観世音菩薩 明治廿九年 旧正月二日	
29	供養塔	舟型	宝永5(一七〇八)	47×25	(正) □ 応魚所圍而生其心 為孤魂性惡善提立之 宝永五年九月施主敬白	

別記1 碑(子ノ神社拝殿新築記念)

(正) 子ノ神社拝殿新築記念 建設委員湯川圭三 杉本國男
杉本若良 土屋誠吾 湯川輝夫 湯川俊信 本田富彦
岩田文雄 石川泰徳 鎌田勝豊 西宮守男 氏子一同
昭和六十二年十月吉日 施工者湯川晃司

別記2 石段袖石

(上段左) 天保六乙未年 十一月吉日
(上段右) 石不偲 世話人杉本新右衛門
(下段右) 世話人 社掌伊藤日榮 杉本喜作 杉本若松
古田長三郎

(下段左) 同修繕 湯川冬雄 大庭好藏 大森松次
外最寄中

大正九年十一月

別記3 庚申塔

(正) ○ 卍 天下和順日月清明 風雨以時災厲不起
國豊民安兵才無用
(右) 石塔建立者奉庚申供養諸願成夫以就之所也現世^因
^因爲奔也 駿劔駿河郡上之原村四村
(左) 延宝六戊午十一月廿三日人数十人 敬白
(背) 一念弥陀佛 即滅無量罪 本所杓本七左衛門

別記4 順礼供養塔(横)

(左) 奉納横道三十三所供粮 亨保廿卯天 八月吉祥日

(正) 御宿村勝股市左衛門 磯部おつや 真田與左衛門

(背) 同村 西川お知か 岩瀬妙白 助右衛門

別記5 順礼供養塔(西・坂・秩)

(正) 卍 奉供粮西國坂東秩父百ヶ所 順礼
(右) 法本曰 拳身光中五道衆生 一切色相皆於中現 矣
中川市三郎 同名市左衛門 同名権左衛門
勝又彦左衛門

(左) 乃至法界 平等利益 施主 敬白 上ヶ田村
土屋六左衛門 八木久右衛門 栢木平内
土屋甚右衛門 栢木平内

(背) 亨保八卯年 十月十八日

別記6 順礼供養塔(坂・西)

(正) 卍 奉供粮南無觀世音菩薩
(右) 法本曰 拳身光中 五道衆生 一切色相 皆於中現
施主 敬白

(左) 右意越者此尊者現當二世利益之菩薩也故坂東西國奉順
礼供養也 勝間田長右衛門 碓嶋文左衛門

(背) 干時正徳元辛卯年八月日

別記7 順礼供養塔(西)

(正) 卍 奉供粮南無觀世音菩薩
(右) 金言曰 拳身光中五道衆生 一切色相皆於中現 矣
同行 勝間田彦九郎 同名平十郎 湯川半三郎

磯邊文左衛門 内方

(左) 夫以念西国卅三所順礼達 此尊号者現當之而益玉故

現當二世之願意者也 正徳三年 癸巳八月十日 敬白

別記8 順礼供養塔(坂・秩)

(正) 奉供養坂東秩父六十七所 順礼 同行八人

(右) 法本曰 拳身光中五道衆生 一切色相皆於中現

二人西國 矣 勝俣彦九郎 同名権八郎

同名市郎左衛門 同名五郎左衛門

(左) 延亨元甲子歳 八月廿一日 久根村室伏新右衛門

蓮□□□□□□□□ 瀬氏 悉善安□□□ 上ヶ田村柏木圃治郎

別記9 順礼供養塔(西・秩・横)

(正) 奉供養西国秩父横道

(右) 經曰 具一切功德慈眼視衆生 福聚海無量是故應頂礼

(左) 宝曆十二壬午天十一月吉日

(台座正) 勝間田甚右衛門 同喜七郎 同権左衛門

黒部与右衛門 岩瀬源治郎 同人母 西川清七郎

上田村 柏木助治郎 同伊左衛門

(台座右) 秩父 与右衛門 源治郎

(台座左) 横道 僧右衛門 清七郎内 湯山氏 おとめ

権左衛門内 甚三郎母 上田村 七良兵衛母 同人内

別記10 碑(御宿八幡宮境内玉垣建設の記)

(正) 御宿八幡宮境内玉垣建設の記 御宿八幡宮は、鎮守の

御社として御守護を受くること厚く、創建以来いくた

びかの増改築等を経て今日存るは敬神の念深き郷土先

達の誠意と努力が継承されてきたことの証左である。

今日ここに關係機關の理解により、待望久しい玉垣の

建設と境内の整備を成し得たことは、御宿歴代区長、

宮世話人のゆるぎない熱意と氏子の確たる協力にほか

ならず、明く清く弥増す敬神の表れである。よって、

ここに建設記念の碑を建て、八幡宮永遠の弥栄と氏子

の安全繁栄を祈念し奉る。昭和六十二年九月吉日

宮司伊藤政秋 総代湯山博 総代湯山泰男

総代湯山匡秀

建設世話人 御宿大区長池谷富雄

御宿新田区长杉本国男 御宿坂上区长塩崎年男

御宿平山区長西川不二夫 御宿上谷区长古田篤擴

宮世話人御宿新田区土屋友喜

宮世話人御宿坂上区勝又三法

宮世話人御宿入谷区磯部正美

宮世話人御宿平山区中川守康

宮世話人御宿上谷区八木芳男

工事施工者有限会社駿東石材店

有限会社勝一建設土木

別記11 碑(富岡生靈神社建設)

(正) 富岡生靈神社建設の経緯

昭和二十五年九月殉国一筋崇高なる信念をもって、荒

塵万丈の大陸に、灼熱の孤島に祖国安泰を念じつつ散った一八一柱の英霊が、生霊の御柱として永遠に鎮まり給う本社殿は、当時富岡村民八七七戸の寄付金二六〇、三九四円の財源をもって建設されたものである。尚社殿敷地は、上ヶ田、柏木力氏、御宿、湯山博氏、御宿、長田光氏三名が総面積一反一畝一四歩の土地を提供下されたものである。

昭和三十三年七月大鳥居改築 工事費三七、五〇〇円
昭和三十五年九月社殿塗装 工事費二〇、五〇〇円
昭和三十七年九月石段改修 工事費二九、五〇〇円
昭和五十三年九月社殿屋根改修（銅板葺）

工事費三五五、〇〇〇円

昭和六十二年九月社殿建設合祀四十周年記念事業の一環として、第二衛生プラント建設事業に伴う協力調整金一、六〇〇、〇〇〇円を財源に、社殿の回廊、石段、塗装等の改修工事が施工されたものである。

昭和六十二年十二月吉日建立

富岡地区々々長会長勝又文雄
郷友会富岡支部長勝又比左志
裾野市役所富岡支所長塩崎新一
富岡地区遺族会長勝又重夫 裾野市郷友会長西島武
富岡地区副区長会長池谷富雄
郷友会富岡副支部長 眞田武雄 土屋理作
富岡地区遺族会理事 渡邊勝三 岩佐貞良
郷友会富岡常任理事土屋誠吾

別記12 碑（岩瀬健吾翁頌徳）

（正）岩瀬健吾翁頌徳碑

元大本営報道部長陸軍少将馬淵逸雄書（花押）

歴代郷友会富岡支部長 杉山彌太郎 勝又正彦
勝又良吉 外川茂雄 中村岩雄 古田彦治 勝又正
杉本儀直 中村文雄
基礎土台石寄贈葛山産業有限会社勝又昌芳
施工者桜井石材工業桜井克芳

（背）翁は明治十六年六月二日御宿三六一番地岩瀬重吉長男

に生れ資性温厚にして孝心に富み明治三十八年日露戦役に従軍して勲八等を賜はり凱旋後帝國在郷軍人会役員となり富岡村分会長の職に在ること二十三年余終始一貫在郷軍人の本分に精神し同会総裁より有功章親授をはじめ同会長長静岡支部長駿東郡連合分会長陸海軍両大臣農林大臣静岡縣知事名古屋憲兵分隊長より表彰状賜杯感謝状等の数々を受け終戦後は特に殉国英霊顯彰のため戦友会を組織して会長富岡生霊神社の建設に方りては委員として之に努力し郷友連盟結成せらるるや富岡村立裾野町郷友会長を歴任同名譽会長となり縣連盟より表彰を受け 益や奉仕の念に燃へありしが昭和三十四年十一月十六日病のため長逝す享年七十六歳家を治め勤儉力行祖国のため盡した業績は偉大である茲に有志相謀り碑を建設録して永世に傳ふる次第である
昭和三十五年九月吉祥日 裾野町郷友会富岡支部建立

別記13 碑（表忠碑）

（正）日露戰役紀念 表忠碑 陸軍大將伯爵寺内正毅書

（背）明治三十七年二月十日大詔煥發對露國宣戰六軍之嚮處

莫不捷焉時我静岡縣駿東郡富岡村應召集從役者前後七

十八名皆善奮戰就中苦戰而死者陸軍砲兵軍曹勲七等功

七級荻野文治郎君外七名也凱旋後以殊勳賜恩賞者三名

也其他之人々亦各蒙賞抑我富岡村南從桃園北至下和田

戸數不滿六百人口不足四千小村落而如斯矣嗚呼偉哉今

茲大正六年在鄉軍人相謀村中從有志者需損金欲建表忠

碑使一鄉後昆長有所鑑干比予不顧不肖揭銘曰

維忠維義 邦家之基 忘忠失義 邦家是危 芙蓉之下

静海之涓 於朝於夕 回想昔時 抱忠守義 須觀此碑

富岡村長勲七等功七級西島親則撰

元富岡村長勲七等片澤孝三書

戰死病歿者

於奉天會戰戰死陸軍歩兵伍長勲八等功七級白井廣次郎

於奉天會戰戰死陸軍砲兵軍曹勲七等功七級荻野文治郎

於牛莊附近戰死陸軍騎兵上等兵勲八等功七級勝又仲藏

於沙河戰戰死陸軍歩兵上等兵勲八等功七級本田順作

建設委員 杉山弥太郎 横山島雄 勝又良吉

勝又文男 荻田賢男 杉山弥市 外川茂雄 真田操

小野豊 真田勝男

撰並書 勝又正彦 勝又敦雄 西島武 柏木新吾

石工 吉川榮作 石材寄贈者 湯山泰男

於沙河戰戰死陸軍歩兵上等兵勲八等功七級鈴木長吉

於魚隣堡戰戰死陸軍歩兵上等兵勲八等功七級芹澤源吉

於遼陽戰戰死陸軍歩兵上等兵勲八等功七級土屋順作

於沙河戰戰死陸軍歩兵上等兵勲八等功七級土屋要

凱旋後病歿陸軍輜重兵上等兵勲八等勝又佐十

建設委員真田留吉 真田房五郎 真田徳三郎

勝又佐太郎 勝又金作 勝又鎗次郎 小野和十郎

柏木保利 勝又榮作 中川貴 中村太吉 岩瀬健吾

杉山與五郎 西島今太郎 市川市太郎

前分會長杉山定吉 分會長西島親則

分會副會長坂田太一 顧問芹澤孝三

別記14 碑（記念碑）

（正）記念碑 昭和二十三年十二月竣工 平山水道組合

（背）組合長岩瀬國男 發起人吉川治郎 外川茂雄

外川美佐雄 土屋好太郎 半田清 古田榮 杉山與作

鈴木元三郎 外川文雄 顧問湯山芳太郎 全湯山芳香

土地提供莊園寺 天産書 施工神地鉄工所

別記15 手洗石

（正）漱盥

（右）勝又匠吉 勝又善太郎 勝又常五郎 勝又喜一

長田忠作 西川專吉 大森萬吉 湯川俊雄

土屋次郎作 西川治作 外川新次郎 西川忠吉

西川裕 小林清作

(左) 勝又敬策 龜井市郎 杉本實 古田宥吉 杉本竹雄

大庭隆惠 古田新太郎 外川喜作 西川佐市

大森春吉 西川省一 湯川勝 外川甚平

サノ石工 三宅市太郎

(背) 光岡山莊園寺現任 廿三世法譽脩史代

御宿青年會 會長岩瀬健吾 副會長勝又喜作

幹事勝又豐作 同磯部芳三 同杉本貢作

常議員勝又吉平 同外川熊雄 同西川源吉

同古田光治 明治十一年十月吉祥日

別記16 庚申塔

(正) ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ 庚申供養敬白

金剛四面石塔者 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 本來寂滅之妙 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 三身同證

悲知果因 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 摩耶也 ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ 結衆等催於庚申一聖契 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ

(右) ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 配干 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 空而 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 之兩益 ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ ㄹ 園立四

面石塔 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 擬成就円滿供養 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 主 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 觀世音保松椿

ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 長繁昌 當來者證 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 性寂夢之樂宝 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 金一色膚指

堂味定也若爾益 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 現冀暫并之類信謗共園功德

(左) 往觀無量覺 皆味同仰利生梵風仍無遂今等垣 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 庚申七

人供養之施主 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 世安穩 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 懺悔 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 惟臬定之膚得何宥寂

矣 平等均 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 庚申供養七人之施主敬白 真田惣左右門

小磯新六郎 磯部文左右門 西川八郎兵衛

(背) 同九右衛門 同傳三郎 同與四右衛門

正徳五乙未 十一月二十八日

別記17 庚申塔

(正) 庚申塔

(背) 文政七甲申年 九月吉日造建之

(台座正) 連講 中川利助 中川甚兵衛 中川勇助

ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 固源藏 西川惣兵衛 西川平右衛門 勝又弥平衛

勝又寅右門 土屋恒右門 外川藤 外川栄左門

岩瀬榮藏 龜井吉左

(左右別石右) 五村頭陀 元文四未十

(左右別石左) 光照庵十 願主空

別記18 地藏菩薩

(上段蓮華座正) ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ

(下段蓮華座背) ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 道師

(線香台) 當村願主 同行十七人 莊園 重譽上人

正徳三癸巳天 四月朔日

明治三年庚午六月廿三日 湯山宮内左衛門奉之

別記19 万靈塔

(台座) 普為師僧父母及善知識導師燒香聞法結緣語迷緣是

聞 覺知四種同向一切施主同行同伴有緣無緣法界衆

ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 善芥 滅罪生善信心 ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ ㄴ 續 ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ ㄷ 終正念必成往生奉建立

之者也 ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ ㄱ 享保廿龍集乙卯四月十五日 光明山淨

廣院莊園寺第十二 世高蓮社仙譽良何上人桃源見周

大和尚用寶塔會造割日 敬白

別記20 庚申塔

(正) 卍 庚申為供養奉造立石塔一基者也 願主 敬白

(左) 園 會 遍 付

園山 園 材 善 乎

新 夫 殿 會 清 淨 運 為 時 石

入 園 園 佛 面 函 會 悉 眼 守 庚 申 年 戌 空 薪 炭

矣 磯崎六右衛門 外川徳左衛門 岩崎茂右衛門

外川平兵衛内

(背)

儀 回

別而庚申因 困 干福 施之 外川文左衛門

小磯 左衛門 岩瀬 左衛門 小磯九良左門

伏希依此 故現在國下安全禍定 長 園 興 無 而

列 嬰

即今 心 園 告 誨 告 等

岩寛文五乙巳年立冬 葵 勝又平左衛門 園 叟 道

園 園

別記21 常夜塔 (道標)

(正) 左ふじみち 右甲州道

(左) 園 園 園 豐 牛 僧 恭 向 千 瑠 璃 殿 前 欽 点 於 常 夜 清 淨 之 一 燈 發

於 精 進 波 羅 蜜 之 願 行 干 十 方 界 募 於 槽 波 羅 蜜 焉 蓋 依 於

比 功 德 力 為 照 破 於 有 情 界 無 明 長 夜 冥 暗 乎 嗚 乎 丈 众 士 利

他 方 使 者 從 於 上 有 頂 到 於 下 金 輪 而 普 通 之 願 因 無 所 否 應

耶 然 則 摩 摩 帝 志 願 之 一 燈 登 在 是 菩 薩 道 之 木 懷 耶 請 施 者

受者同俱之右財翼回向於三輪清淨之無盡燈盡未來際佛

果之勝功德者乎也

銘曰 東方也界 常夜一燈 普照心地 醫王放光

(右) 駿州駿東郡御宿郷

皇和寶曆七丁丑年六月廿五日

(背) 導師普明十七世登舟叟誌焉

導師普明十七世登舟叟誌焉

裾野の石造物点描

水神について

水を祀る神としては、日本古来の神である「アメノミクマリノミコト」とか「ミズハノヒメノミコト」「ミズハヤヒメノミコト」といった神の名がみられるが、所によっては住吉大神や祇園天王（八坂神社）が水の神として尊崇され、この神を勧請して水神としたところもある。いっぽう仏教のなかで上下、日月、四方、四維を護る十二天のうち四方を守護する竜王の水天は、古くから水の神として祀られ、水天宮といわれている。この水天は単に水神だけでなく、水難や水禍を避けるためや、雨乞いの神として祀られたものもあって、祀られた場所に注目する必要があるとする。

蛇は体をくねらせて素早く進むので、その姿形から水の流れに擬せられて、水の流れの蛇形の鬼神となったのが竜神（王）であるとされている。インドでは竜王が十二天の一つである水天となり、中国では竜が雲を呼び雨を降らせる霊神になったとも伝えられている。水天の石像は数が少なく、浮彫として刻まれることが多いという。形態は着衣の立像に五竜の天冠をつけ、右手に剣、左手に竜索を持った姿が一般的であるとする。このほか竜神そのものを水神としたものや、石造物報告書（上）に収録した深良1の24の弁財天は、以前、こゝにあった池を護る水神であったという。また箱根外輪山西麓に近い沢にある茶畑69の1・2の不動明王は、水神ではないかと思われる。



はじめ裾野市内には、水神の石造物は少ないと考えていた。たしかに旧岩波、深良、泉地区には水神とするものは数カ所しかない。この理由は水神信仰を必要としない水利の条件が、何かあったのではないかと考えたが、いま一つには深良用水の完成とあいまって、その総元である芦ノ湖の水と関係の深い箱根神社が、この地区の人々にとっては水神そのものであったのではないかと考えられる。

ところが、今回、報告する須山、富岡地区には、かなりの数の水神が祀られており、東の地区とは対照的である。挿図は、この水神

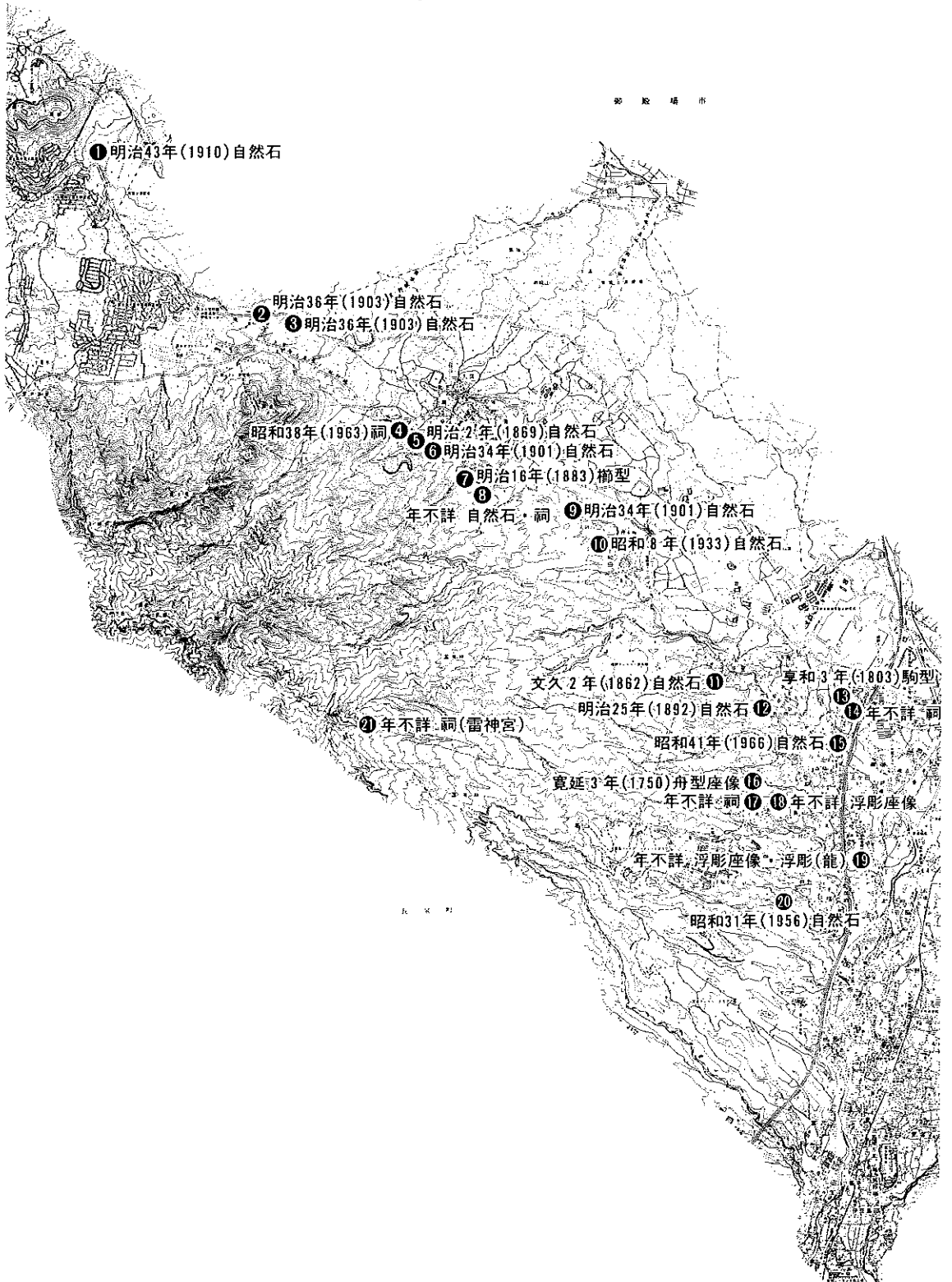
の分布と造立年代及び形態を示したものである。

まずはじめに水神造立の時期をみると、このうち年月不詳のものは、石造形態や彫りなどからみて江戸期のものと類推し、これを含めて近世江戸期の水神は富岡地区北部と南部に集中し、全体の約四〇%を占めている。奉祀の場所は小さな湧水池や水源が多く、水の貴重であったことを如実に示している。このなかで千福平山の浮彫龍神像は珍しい存在である。また葛山上城から大久保川を遡った海拔約一〇〇mの尾根上に祀られた雷神宮は、雨乞いの神であるが、広く解釈すれば水神としてよいのではなからうか。この時期の水神を形態からみると、浮彫座像、文字塔、石祠、浮彫登り龍の順に分類できる。

次に下和田からの須山地区にかけて分布する水神をみると、奉祀年代が近代の明治以後に集中し、特にその後半に多く、奉祀された場所も富士、愛鷹山麓の沢中であるという特色を持っている。この水神造立の背景については、須山十里木の水源碑の碑文に集約されるのではなからうか。それによると、この地区は飲料水に乏しく生活に著るしく困難を極めていたが、湧水や水脈を発見し引水して飲料水の不足を克服できたとするのである。つまりこの地区の水神塔は水道完成の記念碑の意味をも持ったものと考えることができる。

(中野国雄)

水神さん分布図

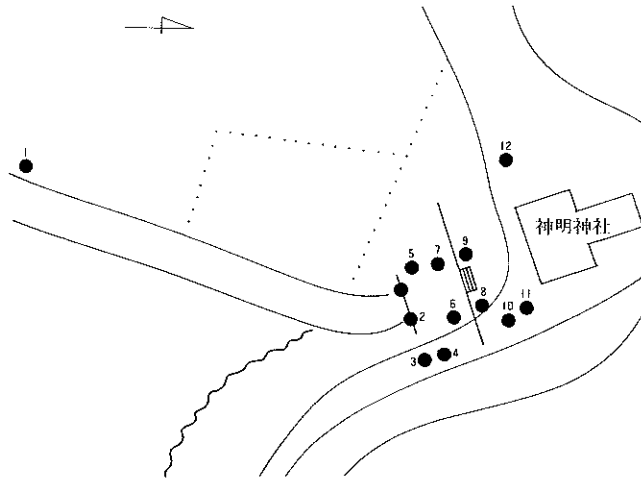


上ヶ田地区

上ヶ田地区



1 道祖神



2 神明神社



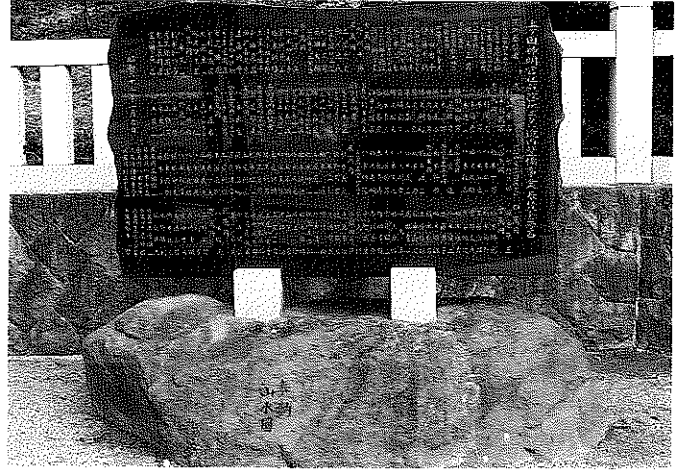
2-2 鳥居



2-1 神社標石



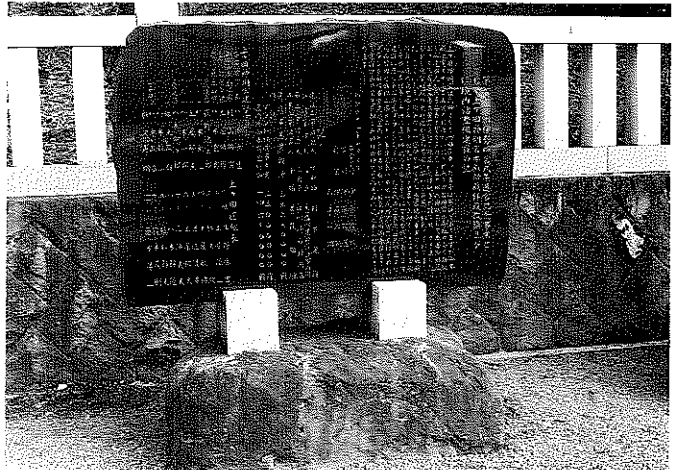
2-6 石灯籠



2-3 碑 (記念事業奉賛名)



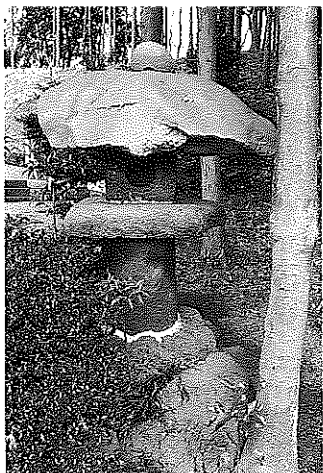
2-7 石灯籠



2-4 碑 (改築整備記念)



2-5 手洗石



2-10 石灯笼



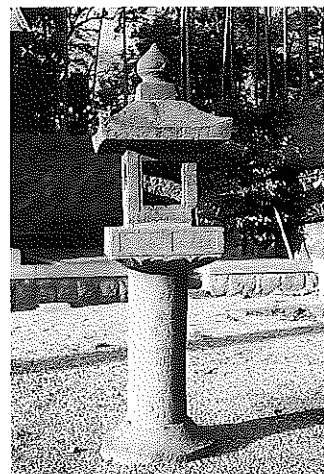
2-9 狛犬



2-8 狛犬



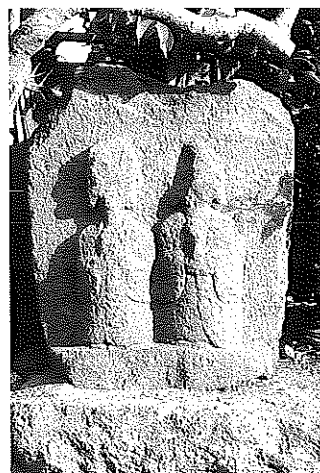
2-12 石灯笼



2-11 石灯笼



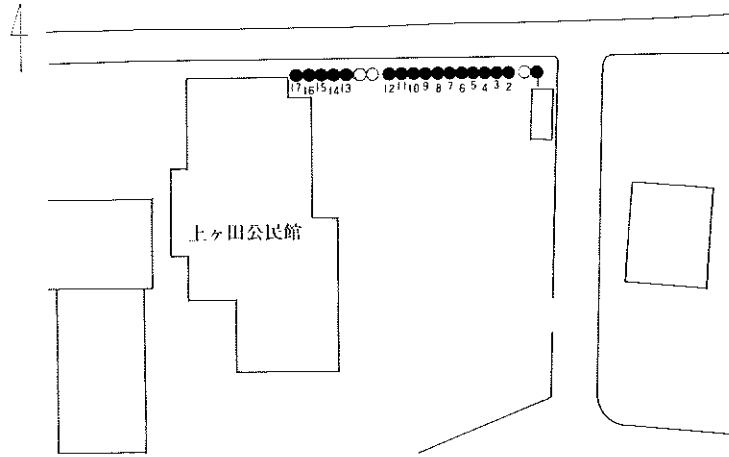
5 祐天名号塔



4 道祖神



3 道祖神



6 上ヶ田公民館



6-3 馬頭観音



6-2 馬頭観音



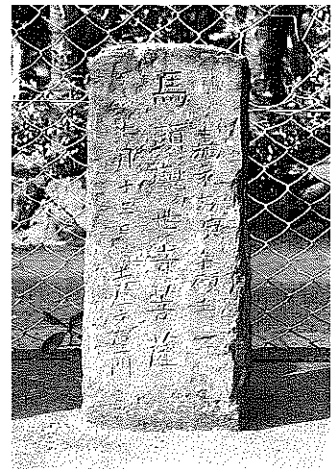
6-1 馬頭観音



6-6 馬頭観音



6-5 馬頭観音



6-4 馬頭観音



6-9 馬頭觀音



6-8 馬頭觀音



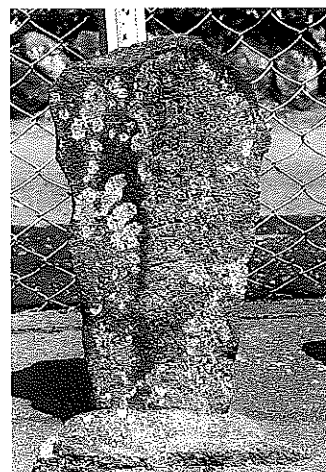
6-7 馬頭觀音



6-12 馬頭觀音



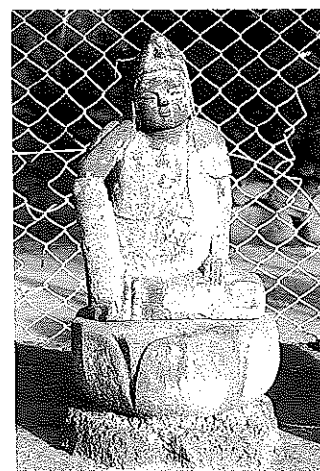
6-11 馬頭觀音



6-10 馬頭觀音



6-15 順礼供養塔（横）



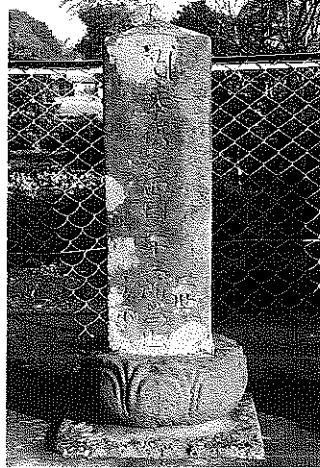
6-14 如意輪觀音



6-13 順礼供養塔（西・横）



7 馬頭観音



6-17 順礼供養塔（西）



6-16 順礼供養塔（坂・秩・横）



8 庚申塔

上ヶ田地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
218	狛犬		昭和63 (一九八八)	202 × 103	(正) 奉納 (背) 昭和六十二年九月吉日 土屋郁夫
217	石灯籠	灯籠	昭和63 (一九八八)	322 × 137	(正) 奉納 (背) 昭和六十三年十月吉日 横須賀市(有)土屋本店土屋房男
216	石灯籠	灯籠	昭和63 (一九八八)	322 × 137	(正) 奉納 (背) 昭和六十二年十月吉日 横須賀市(有)土屋本店土屋房男
215	手洗石	箱型	嘉永5 (二八五二)	104 × 149	(正) 御贖前 (背) 奉納 和皇嘉永五壬子歳 六月吉母旦 氏子中
214	碑 (上ヶ田神明宮改 築整備記念碑)	板石	昭和63 (一九八八)	197 × 162	別記2 (206頁)
213	碑 (上ヶ田神明宮記 念事業奉賛名)	板石	昭和63 (一九八八)	218 × 246	別記1 (205頁)
212	鳥居	神明型	昭和63 (一九八八)	350 × 473	(左柱正) 奉 (右柱正) 納 (左柱背) 昭和六十三年十月吉日 (右柱背) 横須賀市 有限会社土屋商事 土屋嘉信
211	神社標石	角柱	昭和63 (一九八八)	275 × 147	(正) 上ヶ田神明宮 (右) 昭和六十二年十月吉日 社標奉納八木重男 (台座背) 奉納山水園
1	道祖神	自然石	嘉永7 (二八五四)	66 × 67	(正) 道祖神 嘉永七甲寅天 四月吉日 待合中

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
219	狛犬		昭和63 (二九八八)	201 × 103	(正) 奉納 (背) 昭和六十三年九月吉日 土屋郁夫
2110	石灯籠	灯籠	嘉永4 (二八五一)	198 × 123	(正) 奉納 御神燈 (背) 嘉永四辛亥天 八月吉日建之 當村 氏子中 (笠一部欠落・火袋補修)
2111	石灯籠	灯籠	延享2 (二七四五)	171 × 52	(正) 奉納神明宮 寶前 延享乙丑季 中秋吉日 駿陽上ヶ田村 施主土屋二郎兵衛
2112	石灯籠	灯籠	延享3 (二七四六)	177 × 66	(正) 奉納神明宮 寶前 延享丙寅季 初秋吉日 駿陽 施主當村中 (火袋補修)
3	道祖神	自然石	明治9 (二八七六)	83 × 94	(正) 道祖神 上合中 (背) 明治九年 二月造立
4	道祖神(双体)	浮彫立像		48 × 41	(光背・頭部欠落・風化)
5	祐大石塔	自然石	弘化4 (二八四七)	207 × 109	(正) 南無阿弥陀佛三界萬靈 天下和順日月清明 風雨以時災厲不起 大勝上祐天 (背) 世話人 當村中 檀方中 直響 弘化四丁未天 八月再建立
611	馬頭觀音	浮彫立像	大正5 (一九一六)	109 × 48	(台座右) 杉本熊吉五十七才 杉本嘉作二十七才 杉本政藏二十七才 杉本歳次二十五才 大正五年二月 (台座背) 湯原村 我入道 区長 後藤口

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-2	馬頭観音	丸彫立像	昭和52(一九七七)	101×39	(背) 昭和五十一年十二月 八木晋次郎建之
6-3	馬頭観音	山型角柱	宝曆13(一七六三)	79×45	(正) 馬頭観世音菩薩 (右) 梵網戒經曰若見性馬猪羊一切畜生應心念口言汝是畜生發菩提心矣 (左) 金輪圓塔造立旨趣者富村先亡後滅之年馬出離生下死速證菩提 寶曆十三癸未四月
6-4	馬頭観音	自然石	嘉永7(一八五四)	64×28	(正) 馬頭観世音菩薩 嘉永七寅年 七月十三日 願主 土屋文右衛門
6-5	馬頭観音	舟型立像	天保10(一八三九)	59×34	(正) 天保十卯年 六月日 村中
6-6	馬頭観音	浮彫座像	大正15(一九二六)	62×26	(正) 講中 (右) 大正十五年八月上ケ田
6-7	馬頭観音	舟型	明治26(一八九三)	53×21	(正) 馬頭観世音 明治廿六年 十月廿二日 土屋傳四郎
6-8	馬頭観音	舟型立像		46×28	(正) 願主 土屋善兵衛 (風化)
6-9	馬頭観音	浮彫座像	大正10(一九二二)	49×35	(正) □正十□□四月吉日 八木平吉 (中央部割れ目補修)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
6-10	馬頭観音	自然石	慶応3 (一八六七)	50×31	(正) 馬頭観世音菩薩 慶應三卯丁年二月吉日 施主勝亦氏 (左) 治郎平 同土屋氏 (右) 茂平
6-11	馬頭観音	浮彫立像	大正13 (一九二四)	40×28	(正) 大正十三年七月三日 (右) 柏木栄太郎建立之
6-12	馬頭観音	自然石	明治18 (一八八五)	39×24	(正) 馬頭観世音菩薩 明治十八年一月一日 勝又源
6-13	順礼供養塔 (西・横堂)	角型	正徳2 (一七二二)	73×40	別記3 (207頁) (上部墓塔)
6-14	如意輪観音	丸彫座像		67×37	
6-15	順礼供養塔 (横堂)	丸彫座像	享保20 (一七三五)	94×47	別記4 (207頁) (聖観音)
6-16	順礼供養塔 (坂・秩・横)	山型角柱	天明3 (一七八三)	90×62	別記5 (207頁)
6-17	順礼供養塔 (西)	山型角柱	宝永7 (一七一〇)	106×52	別記6 (207頁)
7	馬頭観音	自然石	嘉永7 (一八五四)	55×31	(正) 馬頭観世音菩薩 嘉永七甲寅八月 柏木弥平

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
8	庚申塔	笠唐破風 角柱	寛文9 (一六六九)	161×66	(正) ○ 〽 造堂豪權渾人者長命 富貴而 踰金華 施主 敬白 (右) 奉庚申供養本願十八人并村中 二三人 駿州駿河郡 上ヶ田村 (左) 寛文九酉年十一月一日 (一部欠落・猿浮彫)

別記1 碑 (上ヶ田神明宮記念事業奉賛名)

(正) 上ヶ田神明宮社殿改築並びに境内整備事業奉賛金芳名

区外奉賛者

- 老百貳拾萬円 (鳥居含む) (有) 土屋商事土屋嘉信
- 老百萬円 (燈籠一對含む) (有) 土屋本店土屋房男
- 貳拾萬円勝又正男
- 老拾六萬円永原大神宮宮司鈴木由治
- 老拾萬円司法書士八木幸夫 永田哲子
- 伊藤千鶴 (本坪鈴雪洞燈台含む) 芝昌勝又東平
- (有) 荻田組荻田繁明 杉本とし
- (有) 森川建築設計事務所森川与志雄
- ホワイト歯科勝又徳昭 渡辺朗 (沼津市長)
- 七萬円野川千勝 五萬円土屋忠文 相沢澄代
- みよし堀口三次 杉本文男 真田大輔
- 世紀東急工業(株) 参萬円渡辺進 勝又加寿子
- 室伏慧美 柏木知勝 清月小林春野 土屋美佐子
- 和田晃昌 瀬戸喜久重 遠藤時中
- マルヤス商店柏木保明 (有) 土屋商店
- (有) 芝勝園 (有) 杉本商店 大庭重一

- 勝又マスエ 貳萬円八木文一 杉本かつみ
- (有) 久保商店 杉山衣料店 室田魚店
- 貳萬円杉山米店 (有) 木村商店 老萬円内村隆志
- 杉本昇 八木靖彦 八木健一 勝間田静男 土屋睦男
- 八木三郎 勝又直治 勝又秀男 勝又利裕 勝又弘
- 米山嘉一 岩崎菊次 勝又信夫 橋本勇三 西島春男
- 臼井呉服店 五萬円杉本光夫
- 特別奉納者篝火台四基八木弘臣
- 芳名碑社標碑建設の記碑台石(有) 山水園
- 厄神社鳥居勝又昌臣 御霊代綿覆社絞刺繡山形紋章店
- 電気工事柿木伸一 水道工事杉本誠
- 緑化工事土屋隆一 上ヶ田区内奉賛者
- 老百五拾萬円 (狛犬一對含む) 土屋郁夫
- 五拾萬円八木長生
- 四拾五萬円 (社標一基含む) 八木重男
- 参拾萬円八木正名 (真榊一對含む) 柏木仁
- 土屋勝幹 荻野徳太郎 八木一郎 杉山勝男
- 八木太一 柏木友一
- (貳拾参萬四千円 (神鏡一面含む) 八木惣次郎

貳拾萬円 柏木一男 八木政一 八木弘臣 勝又政雄

八木政治 壹拾五萬円 土屋進

壹拾萬圓 壹千円 柏木博恭 壹拾萬円 柏木謙二 柏木力

柏木義正 勝又利幸 杉本寛之 土屋静男 土屋秀寿

相沢寿明 八木輝隆 真田齒科真田千賀子

五萬円 杉本義之 佐野久吉 八木よし 柏木通

土屋隆一 柏木伸一 柏木儀徳 柏木成元 柏木正則

柏木至信 土屋秋博 勝又純男 勝又芳男 杉本紘一

土屋利正 荻野正裕 渡辺清幸 土屋利信 土屋直則

藤卷一夫 三浦義夫 八木雅彦 八木良信 八木政幸

植松静夫 鈴木茂樹 藤本洋一 五萬円 高橋昭一

参萬円 八木春海 参萬円 八木豊彦 貳萬円 鎌田重子

貳萬円 杉山かな江 四萬円 海老原正 参萬円 柏木博光

柏木菊野 工藤治郎 宮部文夫 泉谷功次 柏木雅義

八木健二 近藤孝子 柏木保雄 柏木秋男 土屋信雄

杉本嘉久 高橋幸一 幌馬車 勝又長作 宮崎昭二

作田孝雄 今村善彦 中野武史 前島修 勝間田忠徳

寺島春雄 樋口英治 小嶋電気 田村勝 八木清一

伏見友治郎 鈴木雅晴 尾上稔 山下晋 渡部功

高岸三男 土屋八重子 太田松次郎 永井良太郎

岩崎眞佐美 中泉建治 東亞夫 貳萬円 八木俊夫

壹萬円 平野敏男 村杉方 氏川清明 宮田吉夫

土屋三男 岡本良三 水野勝利 堀籠博志

参萬円 土屋慎一 参萬円 土屋好昭

貳萬円 (有) ニシカワデンキ 参萬円 柏木智

昭和六十三年十月吉日

(台座正) 奉納 山水園

別記2 碑 (上ヶ田神明宮改築整備記念碑)

(正) 第六十一回伊勢神宮式年遷宮記念事業として上ヶ田神明宮本殿幣殿拝殿改築並びに境内諸整備建設の記

上ヶ田神明宮は氏神として御鎮座奉った年号は不詳で

ありますが御本殿は寛文十二年再建とお棟札に記され

あり伊勢神宮の御社の姿と類似し私達祖先が氏子安泰

と繁栄を祈念し上ヶ田氏神社として奉斎御鎮座奉って

三百十五年の星霜を経て現在に受け継ぎお護り致して

きましたしかし現今社殿の老朽化が進み尊厳に関わる

状態に相到っておりましてここに氏子一同第六十一

回伊勢神宮式年遷宮祈念事業として社殿改築と境内諸

整備を成し奉り祖先の遺徳を尊重し氏神として深く崇

敬しその心を継承し子孫に遺し神徳の尊嚴を全くにす

るものであります建設に際し第二衛生プラント交渉に

当った歴代の区長と区民の並々ならぬ努力と特に山場

の六十一年度区長八木太一氏の尽力で交付されたプラ

ント補償事業費と区内外崇敬者の暖かいお気持ちの御

奉賛金で以て建設計画の完遂を期し氏神様の神恩と御

恵みに応え奉らむものであります

昭和六十三年十月吉日

名譽宮司伊藤政秋 宮司伊藤政進 禰宜伊藤政嗣

氏子一同 記 建設工事請負人下和田杉本建設

設計管理人深良(旬)森川建築設計事務所

石工事請負人三島市(株)川崎石材商店

土木工事請負人千福(有)荻田組

建設事業費財源三九六九〇〇〇〇円

内訳 プラント補償事業費二五〇〇〇〇〇〇円

区内外御奉賛金総額一四六九〇〇〇〇円

上ヶ田神明建設委員会 委員長(区長) 八木長生

副委員長(副区長) 杉山勝男

会計(区会計) 土屋勝幹 委員(区顧問) 八木重男

(区協議員) 荻野徳太郎 八木太一 土屋郁夫

八木一郎 (氏子総代) 八木惣次郎 勝又政雄

八木政一 (宮世話人) 八木政治 相沢寿明

上ヶ田区組長一組佐野佐吉 二組土屋隆一

三組勝又強 四組土屋秋博 五組渡辺清幸

六組土屋郁夫 七組三浦義夫 八組八木輝隆

九組植松静夫 十組鈴木茂樹 十一組藤本洋一

(台座正) 山水園

別記3 順礼供養塔(西・横堂)

(上部墓塔) 實譽浄真法子 元文六辛酉 二月朔日

(台座正) 令順礼西国横道爲二世安楽也

(台座右) 勝又甚兵衛内 杵本二郎衛門 同内室

大場兵左衛門内 同系

(台座右) 柏木伊左門 同内室 同勘三郎母 土屋傳兵衛

同室内

(台座背) 上ヶ田村 正徳二壬辰天九月十八日

別記4 順礼供養塔(横堂)

(台座正) 奉供粮横堂卅三所 傳相院 順礼

享保二十乙卯天 八月十八日

上ヶ田村柏木甚兵衛 同藤右衛門 同武兵衛

同平八郎内 同三郎左衛門内 土屋傳兵衛

八木又八郎母 同久左衛門 御宿村膳股彦九郎

同仁左衛門 葛山村膳股平八郎内 同庄兵衛内

瀬戸源八郎 井出お寿て 膳股甚右衛門内

別記5 順礼供養塔(坂・秩・横)

(正) 奉供粮坂東秩父横道順禮

(右) 天明三癸卯載

(左) 九月十七日造立

(台座正) 柏木伊左衛門父母 勝間田五左衛門

柏木伊左衛門 同同人妻 土屋甚右門母 荻野あき

同五右門 杵本松右門 柏木平八郎母 土屋儀衛門母

八木与惣衛門母 同清蔵母 柏木お志免

別記6 順礼供養塔(西)

(正) 奉供粮西国三十三所爲 二世 安楽也

(右) 金文曰 天下和順 日月清明 雨風以時 災厲不起

上ヶ田村柏木伴左衛門 同平内 同伊右衛門

八木久右衛門 勝又七郎兵衛 同二郎兵衛

(左) 金文曰 拳身光中五道衆生 一切色相皆於中現

金澤村長田□次 佐野村秋山□右衛門

葛山村勝又佐兵衛 今里村勝又与市郎

御宿村磯部淺右衛門

(背) 皆宝永七庚寅天十月十八日施主 敬白